

令和元年度事業報告



令和元年8月豪雨災害で避難所巡回診療を行う日赤佐賀県支部救護班

「人間を救うのは、人間だ。」

 **日本赤十字社 佐賀県支部**
Japanese Red Cross Society

日本赤十字社の使命

わたしたちは、
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、
いかなる状況下でも、
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

わたしたちの基本原則

わたしたちは、世界中の赤十字が共有する7つの基本原則にしたがって行動します。

- 人 道：人間のいのちと健康、尊厳を守るため、苦痛の予防と軽減に努めます。
- 公 平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。
- 中 立：すべての人の信頼を得て活動するため、いっさいの争いに加わりません。
- 独 立：国や他の援助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自主性を保ちます。
- 奉 仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。
- 単 一：国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を進めます。
- 世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します。

わたしたちの決意

わたしたちは、赤十字運動の担い手として、
人道の実現のために、
利己心と闘い、無関心に陥ることなく、
人の痛みや苦しみに目を向け、
常に想像力をもって行動します。

目 次

ページ

OMission statement

○ 目 次	1
○ 令和元年度 事業報告（はじめに）	3
1 国内災害救護体制の強化	6
(1) 災害救護活動	6
(2) 救護体制の整備	8
(3) 災害救護訓練の実施	9
(4) 防災教育事業指導者の育成と赤十字防災セミナーの開催	12
(5) 救護資機材の整備	13
(6) 災害見舞金・見舞品の贈呈	15
(7) 国内義援金	16
(8) 臨時救護	16
2 海外における救援活動や開発協力	17
(1) 本社の活動	17
(2) 佐賀県支部の活動	19
3 赤十字講習事業の普及	22
(1) 救急法	22
(2) 水上安全法	22
(3) 健康生活支援講習	23
(4) 幼児安全法	24
(5) 指導員研修会	24
4 青少年赤十字（JRC）の活動	25
(1) 青少年赤十字加盟校の構成	25
(2) 活動状況	27
5 赤十字ボランティアによる活動	35
(1) 地域赤十字奉仕団	35
(2) 青年赤十字奉仕団	35
(3) 特殊赤十字奉仕団	36
(4) 活動状況	37
(5) 奉仕者功労表彰	41
6 赤十字思想の普及と広報体制の充実	42
(1) 令和元年度全国赤十字大会	42
(2) 令和元年度九州八県赤十字大会	42
(3) 赤十字運動イベント	43

(4)	博愛フェスタ2019	44
(5)	佐野祭	45
(6)	防災・減災プロジェクト～私たちは忘れない～	45
(7)	その他の広報活動	45
7	活動資金募集の推進と財政基盤の強化	48
(1)	会員数	48
(2)	赤十字会員増強運動	48
(3)	令和元年度活動資金募集実績	49
8	支部評議員会の開催	51
9	医療事業の充実（唐津赤十字病院）	52
(1)	総 括	52
(2)	令和元年度の重点的取り組みに関する現況	52
ア	救急医療・急性期医療体制への取り組み	52
イ	医師の確保対策	53
ウ	看護師の確保対策	53
エ	小児・周産期医療体制への取組み	53
オ	地域がん診療連携拠点病院としての機能強化	53
カ	地域医療支援病院としての機能強化	54
キ	DPC/PDPS（診断群分類を用いた1日当たり包括支払方式）対策	54
ク	災害時医療	54
ケ	重点支援病院指定に伴う取組み	55
コ	経営健全化対策	55
10	佐賀県支部の組織・役職員	58
(1)	組織	58
(2)	役職員	59
○	日本赤十字社佐賀県支部の現勢	64

はじめに

令和元年度赤十字事業の推進につきましては、赤十字関係者をはじめ多くの県民の皆さまからご支援ご協力を賜りまして、心より厚くお礼申し上げます。ここに、事業の概要をご報告いたします。

1 国内災害救護体制の強化

平成 29 年九州北部豪雨や平成 30 年西日本豪雨災害など、国内で頻発・広域・激甚化するこうした災害に備え、「日本赤十字社佐賀県支部防災業務計画」及び「日本赤十字社佐賀県支部防災業務実施要項」にもとづいた支部救護班要員（医師、看護師、主事等）の訓練を実施するとともに、併せて、地域、九州、全国の防災関係機関が実施する多様な訓練や研修にも積極的に参加し、防災対応能力の強化に取り組みました。

特に、令和元年 8 月豪雨災害に対応するため、佐賀県支部は、支部災害救護実施対策本部を設置し、日赤災害医療コーディネートチームや赤十字救護班（九州他県を含む）を派遣して、避難されている方々への救護活動を実施しました。

さらに、地域や学校などの防災・減災ニーズに応えるため、赤十字の知識、技術、資源を用いての「防災セミナー」を開催（約 3,900 人受講）し、防災・減災の思想普及に努めました。

2 海外における救援活動や開発協力

国際赤十字の一員としての日本赤十字社が行う世界各地で発生している紛争や自然災害の被災者に対する人道的な支援の一環として、緊急アピールに沿った救援金の募集活動を実施しています。

令和元年度も、12 月に全国展開する「海外たすけあいキャンペーン」では、青少年赤十字メンバーや赤十字奉仕団員及び会社員など多くのボランティアの参加協力を得ながら、県内 9 カ所において街頭募金を実施し、日赤が行う海外救援事業の活動資金の確保に努めました。県内では期間中 3,811 千円（全国約 6 億 6 千万円）の救援金が寄せられました。

3 赤十字講習事業の普及

救急法や水上安全法、健康生活支援講習並びに幼児安全法など「尊いいのちと健康を守る赤十字講習」を、県内で 125 回開催し、約 4,900 人の方々に受講いただきました。事故防止の思想の普及と AED を使用した一次救命処置が必要な緊急時の対応など、必要な知識と技術の普及に努めました。

4 青少年赤十字の活動

青少年赤十字は、「苦しむ人に手を差し伸べたい」という誰もが持っている博愛の心を

育むため、幼・保、小、中、高等学校の中に組織されています。

令和元年度は、教育行政や指導者協議会及び賛助奉仕団の協力のもと、活動の普及・啓発強化策の効果で、加盟校が前年度から1校増加し、252校(園)、メンバー総数59,695人、加盟率80%を達成しました。

また、リーダー養成のための宿泊研修(リーダーシップ・トレーニングセンター)では、「気づき、考え、実行する」行動姿勢を養った“生きる力”をもった子供達の育成が図られています。

令和元年度も前年度に引き続き、防災教育プログラム「まもるいのち ひろめるぼうさい」と幼稚園・保育所向け防災教材「ぼうさい まちがいさがし はっけん」の普及促進に取り組みました。

5 赤十字ボランティアによる活動

赤十字の使命に共感する赤十字ボランティアは、それぞれが保持する能力を活かして、災害救護や社会福祉、生活環境の改善のための人道的諸事業の支援者、協働者であります。

特に、本県支部管内の12の奉仕団の委員長で組織された「佐賀県赤十字奉仕団委員長連絡会議」の協力を得ながら、活動の充実強化と防災ボランティアの育成に努めました。

6 赤十字思想の普及と広報体制の充実

赤十字思想の啓発と功労者に対する顕彰を目的とする全国の赤十字大会への参加及び赤十字運動イベントの「防災セミナー」などにより、広く県民に赤十字思想の普及と活動をアピールしました。

また、マスコミやSNSや広報紙などさまざまな媒体を活用して、よりタイムリーな広報・情報提供に努めました。

さらに、職員ひとり一人の広報力向上を目指す「もっとクロス!計画」に管下施設職員が継続的に取り組み、若年層への赤十字思想の普及を積極的に行いました。

7 活動資金募集の推進と財政基盤の強化

赤十字事業を財政的に支えている本県の会員及び寄付者数は、令和2年3月31日現在個人が233,231人、法人が2,132社で、令和元年度に寄せられた活動資金の実績額は126,438,137円となっております。

人口動態や住環境の変化及び経済不況の影響など厳しい社会情勢を反映して地区分区扱の活動資金は減少傾向が続き、大口の活動資金の減少もあり前年度実績を下回る結果(95.1%)となりました。

佐賀県支部では、赤十字活動資金の安定的な確保を図るため、遺贈や赤十字支援型自販機の設置、ダイレクトメールによる法人への働き掛けを強化したほか、地区・分区をはじめとする関係者のご協力を得ながら募集活動を県内全域で展開して、財政基盤の増強に努めています。

8 医療事業の充実

平成30年7月に日本赤十字社（本社）から唐津赤十字病院の経営状況について改善の必要性が指摘され、「重点支援病院」の指定を受けました。この指定解除を喫緊の課題とし、医業収益の増加、医業費用の適正化に努めてきました。

その結果、紹介型の地域中核病院として、連携の強化と医療の安全と質の向上に取り組み、新規入院患者は前年度実績を上回るなど一年を通して収益の増加、人件費の抑制、共同購入等による費用削減等に努めたことで、今年度は経常収支の黒字化を果たすことができました。

また、新型コロナウイルス感染症に対応して、感染症指定医療機関としての役割を果たすべく取り組んでいます。

9 血液事業の推進

佐賀県赤十字血液センターでは、病気やけがで苦しんでいる患者さんに対し安全な血液を安定的に供給するため、少子高齢化が進展する中、行政や献血協力団体などと連携しながら、あらゆる機会をとらえて県民の皆様に献血へのご理解とご協力をお願いしています。特に、若年層の献血率は全国平均に及ばず、10代では3.9%と全国平均を下回る結果であったことから、最重点課題として取り組みを進めます。さらに、グロブリン製剤適応症例が拡大され、原料血漿の必要量が大幅に増えています。成分献血、特に成分血漿の確保に力を入れております。

また、問診の強化、システム化の推進、教育訓練の実施など、安全対策を一層充実させるとともに、輸血医療機関への医薬情報活動を強化し、適正かつ安全な輸血療法の向上に努めています。

さらに全国的な広域事業運営体制のもと、各ブロック単位での一体的事業運営、広域的な需給管理による安全性の向上と安定供給を確保し、県民から信頼される血液事業を展開します。

1 国内災害救護体制の強化

災害救護は、日本赤十字社の中核的な事業であり、大規模災害等非常災害時における医療救護活動をはじめ火災等による小災害に対しても被災者支援を実施しています。

佐賀県支部では、これらの救護業務を円滑に行なうため、災害救護訓練、救護員の養成、救護資器材の整備、救援物資の備蓄等、救護体制の強化に努めてきました。



令和元年8月豪雨災害（日赤佐賀県支部救護班）

特に、平成29年九州北部豪雨や平成30年西日本豪雨災害を教訓に、「常備救護班要員研修会」を出水期に入る前に実施し、施設間の連携と資質向上を図り、早期に救護体制を整えました。

（1）災害救護活動

ア 「令和元年8月豪雨災害」

令和元年8月豪雨災害に対応するため、佐賀県支部では8月28日に支部災害救護実施対策本部を設置し、直ちに佐賀県庁に設置された保健医療調整本部に日赤災害医療コーディネートチームを派遣しました。

県保健医療調整本部及び杵藤地域保健医療調整本部からの救護班の派遣要請に応じ、日赤佐賀県支部第一救護班（唐津赤十字病院）及び夜間巡回看護師3班を始め、「日赤第6ブロック相互支援申し合わせ書」に基づき派遣された、九州各県支部救護班5班と合わせて計9班を避難所等8ヶ所へ派遣し、巡回診療や医療保健ニーズのアセスメントを行いました。こころのケアチームについては、派遣要請はありませんでしたが、いつでも対応できるよう準備を整えました。

災害ボランティアセンターは8月29日に設置し、赤十字防災ボランティア21名が救援物資の配送、義援金受付、記録（クロノロジー）などを行いました。

県内避難所の閉所に伴い、県災害対策本部が復旧・復興推進本部へ移行したことに合わせて、当支部の救護体制は10月8日に解除しました。

救護班等の活動

派遣期間	派遣者及び派遣先
8月29日から9月1日	救護班 計6班 佐賀県支部 1班6名 福岡県支部 2班16名

	熊本県支部 1班8名 長崎県支部 1班8名 鹿児島県支部 1班6名 派遣先 計8ヶ所 武雄市5ヶ所： 武雄市文化会館、武雄市立朝日小学校、武雄市長寿園、武雄市北方保健センター、杵藤保健福祉事務所 大町町3ヶ所： 大町町総合福祉保健センター美郷、大町町公民館、大町ひじり学園武道場
9月7日から9月10日	夜間巡回看護師 計3班 唐津赤十字病院 看護師長6名（2名ずつ3日間） 派遣先 武雄市： 武雄市北方保健センター
8月28日から9月2日	日赤災害医療コーディネートチーム 計3班 佐賀県支部 2班3名 本社 1班3名（災害医療統括監1名） 派遣先 佐賀県保健医療調整本部 杵藤地域保健医療調整本部 日本赤十字社佐賀県支部
8月28日から9月6日	支部災害対策本部支援員 計2名（唐津赤十字病院） 派遣先 日本赤十字社佐賀県支部

赤十字防災ボランティアの活動

活動期間	参加人数及び活動内容
8月29日から9月10日	赤十字防災ボランティア 計21名（のべ58名） 活動内容 救援物資の積み込み、配送 災害義援金受付業務 救護班帯同（経路案内） 支部災害対策本部業務支援（記録等） 支部庁舎内清掃

救援物資の配付

配分期間	品目・数量・配分先
8月29日から9月4日	救援物資（合計） 毛布 70枚 安眠セット 470セット 緊急セット 366セット バスタオル 200枚 タオルケット 270枚 ※避難所の閉所に伴い、行政の要請により救援物資の一部を回収 配分先 武雄市地区、大町町総合福祉保健センター 美郷、大町町公民館、大町ひじり学園武道場



避難所での日赤医療救護班の活動の様子



日赤さが災害ボランティアセンターの様子

（２）救護体制の整備

ア 救護班の編成

日本赤十字社は、災害等に医療救護が必要な場合に迅速に救護班の派遣ができるよう「常備救護班」を編成しています。

本県支部関係の常備救護班は、４個班（唐津赤十字病院３個班、佐賀県赤十字血液センター１個班）２４人で編成しています。

救護班編成基準と要員数

区 分	医 師	看護師長	看護師	主 事	計
１ 個 班 の 編 成 基 準	１ 名	１ 名	２ 名	２ 名	６ 名

イ DMATの編成

「DMAT」とはDisaster Medical Assistance Teamsの頭文字をとった略称で「災害急性期に活動できる機動性を持った、専門的な訓練を受けた医療チーム（災害派遣医療チーム）」のこと。

厚生労働省が阪神淡路大震災を教訓に、災害拠点病院内に「日本DMATチーム」を編成し、大地震及び航空機・列車事故といった災害時に被災地に迅速に派遣し超急性期の救急医療を担うことを目的に編成しています。

唐津赤十字病院では、日本DMAT 3チーム（1チーム医師1名、看護師3名、主事2名）を編成し、東日本大震災や熊本地震の際に出動したほか、各種訓練や研修に参加しています。

なお、佐賀県と日赤佐賀県支部（唐津赤十字病院）は平成21年4月1日に「災害派遣医療チーム指定病院」としての協定を締結しています。



ウ 看護師の養成

救護看護師を確保するとともに、唐津赤十字病院における看護師の充足を図るため、日本赤十字九州国際看護大学で学ぶ学生に奨学金を貸与し看護師の養成を行っています。

なお、奨学金は1人年額60万円で継続して4年間貸与し、県支部と唐津赤十字病院が負担しています。

令和元年度における救護看護師の養成は次のとおりです。

看護師奨学生の養成区分（令和2年3月末現在）

学 校 名	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年
日本赤十字九州国際看護大学	2名	1名	2名	2名



（3）災害救護訓練の実施

ア 赤十字関連訓練

（ア）日本赤十字社佐賀県支部常備救護班要員研修会

（波戸岬少年自然の家、6月8日～9日：1泊2日）

唐津赤十字病院・佐賀県赤十字血液センター・佐賀県支部の救護班要員及び訓練スタッフ総勢47名が参加しました。

令和元年度は、佐賀大学医学部附属病院の教授ら4名がオブザーバーとして訓練に参加しました。

○訓練内容

- ①赤十字の災害救護活動、②救護体制と救護班、③救護班の編成と管理運営
- ④グループワーク、⑤情報収集と管理、⑥トリアージ、⑦こころのケア、⑧
- 原子力災害対応、⑨救護所設営、撤収



佐賀大学医学部附属病院との合同訓練



訓練終了後の集合写真

(イ) 令和元年度九州八県支部合同災害救護訓練（沖縄県那覇市、11月22日～24日）

今年度は、沖縄本島南部スラブ内を震源とするM7.8の地震を想定し、第6（九州）ブロック支部合同の救護訓練を実施しました。

前年度訓練の評価・検証報告に基づく課題の解消に取り組むと共に、熊本地震対応総括等を踏まえ、沖縄県における大規模災害発生時の対応の検討及び九州八県支部と防災関係機関の更なる連携強化を図ることを目的としました。

支部災害救護実施対策本部支援要員、救護班員、防災ボランティア並びに那覇市防災危機管理課、那覇市保健所、沖縄南部療育医療センター、沖縄県立看護大学等、総勢約300人が参集しての訓練となりました。

佐賀県支部管内からは合計4名の職員が参加しました。

○訓練の主眼

- ①第6ブロック内相互支援及び受援体制の確立訓練
- ②支部災害救護実施対策本部の設置・運営訓練
- ③防災関係機関との合同による救護所支援
- ④通信の確保及び情報の収集、整理、共有、報告

(ウ) 令和元年度日本赤十字社原子力災害対応基礎研修会

（唐津赤十字病院、1月24日～25日：1泊2日）

日本赤十字社は、東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所事故において、日赤における原子力災害対応が不十分であった教訓を踏まえ、原子力災害における救護活動基準を定め研修会を開催しています。第6（九州）ブロック内では、2年に1度各県が持ち回りで開催することとし、令和元年度は当県が当番県として実施しました。

救護班要員に登録されている職員（医師・看護師・事務職員・こころのケア指導者等）、放射線測定装置を管理する診療放射線技師、救護活動に携わる支部・施設職員などの九州各県からの受講者に加え、全国から原子力災害医療アドバイザーをはじめとする講師及び運営スタッフなど、総勢52名が参加しました。

○研修会の目的

救護班要員等が、放射線環境下での救護活動に安全かつ安心して従事できるよう放射線や原子力災害医療体制等にかかる基本的知識及び放射線防護資器材の使用方法を習得する。

（エ）災害救護の知識と技術の更なる向上を図るため、以下の本社主催の研修会に参加しました。

研修名	日程	参加者
全国赤十字救護班研修会	8月24日～ 26日	病院薬剤師1名 病院事務職員1名
日赤災害医療コーディネート研修会	9月14～ 15日	病院事務職員1名
	12月7日～ 8日	病院薬剤師1名 病院看護師1名
こころのケア指導者養成研修会	11月15日～ 17日	支部職員2名

イ 自治体関係訓練

（ア）航空機事故対策総合訓練（佐賀空港、10月27日）

佐賀空港を離陸中の航空機におけるエンジン火災及びオーバーラン、緊急停止等を想定し、消防、医療、警察等関係機関相互の連携・協力の強化を図る事故対策訓練。エアートtent1張を使用した救護所設置を担当。唐津赤十字病院2名及び佐賀県赤十字血液センター1名、佐賀県支部3名の計6名が参加しました。

（イ）佐賀県原子力防災訓練（唐津赤十字病院内他、11月30日）

玄海原子力発電所における放射性物質の放出等特殊災害が発生したとの想定のもと、唐津市、伊万里市、玄海町などのエリアを対象に、行政機関や防災機関、多くの地域住民等が参加して実施。唐津赤十字病院は被ばく傷病者等受入訓練を、佐賀県支部は緊急時通報連絡・情報伝達訓練を担当。唐津赤十字病院20名及び佐賀県支部1名 計21名が参加しました。

（ウ）九州管区広域緊急援助隊合同訓練（武雄市北方町、令和2年1月21日）

九州管区警察局及び九州各県警察が毎年持ち回りで実施する広域緊急援助隊及び防災関係機関との合同訓練。令和元年8月豪雨災害を想定し、エアートtent2張を使用した救護所設置を担当。佐賀県支部5名が参加しました。

(エ) 佐賀市総合防災訓練（佐賀市久保田町、令和2年2月1日）

大雨災害を想定した地区の住民による避難訓練及び体験型訓練、並びに防災関係機関による相互連携を確認する総合訓練。①応急救護所設営・応急手当指導、②小学生対象の応急手当、③展示ブースの設営を担当。佐賀県支部2名及び防災ボランティア11名の計13名が参加しました。



日赤エアートtentを使用した救護所
（九州管区広域緊急援助隊合同訓練）



防災ボランティアによる応急救護所設営
と傷病者対応（佐賀市総合防災訓練）

(オ) 佐賀県災害医療従事者研修会

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止となりました。

(4) 防災教育事業指導者の育成と赤十字防災セミナーの開催

ア 防災教育事業指導者の養成

全国で実施される「日本赤十字社防災教育事業」の普及・拡大に伴い、事業（セミナー）の指導・運営を行う指導者を養成するため、7月26日（金）～28日（日）本社で開催された養成研修会に、特殊輸送奉仕団委員長1名、水上安全・輸送奉仕団員1名の計2名を派遣しました。

佐賀県支部防災教育事業指導者

所属	人数
支部職員	1名
奉仕団員	7名

イ 防災講習会（赤十字防災セミナー）の開催

熊本地震や西日本豪雨等の大規模災害に伴う防災・減災ニーズの高まりを受けて佐賀県支部は、赤十字防災プログラムをもとに、地域の人たちのいのちを守る実践的な知識や技術を習得する講習会を開催しました。



ストッキングで止血を指導する防災
ボランティア

防災セミナーの開催状況

実施回数	参加者数	セミナーの内容
42回	3,863人	○防災講話 … 災害への備え、自助共助の役割、避難のルール、避難所での生活、非常持ち出し品の準備 ○応急手当 … ストッキング・毛布・新聞紙等を応用した手当 ○災害食作り … ハイゼックス（炊飯袋）を使った炊き出し訓練

ウ 防災ボランティア自主勉強会の開催

赤十字防災セミナーのリーダー指導員を養成することと、防災・減災に関する知識と技術を習得することを目的に、赤十字奉仕団員を対象に開催しました。令和元年度は9回実施し、のべ95名の参加がありました。

エ 防災ボランティア研修会「災害ボランティアセンター」立ち上げ訓練

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止しました。

(5) 救護資機材の整備

資機材及び救援物資の保有備蓄状況

令和元年度末における救護活動に必要な資機材の保有状況及び救援物資の備蓄状況は次のとおりです。

ア 救護資機（器）材の保有状況（唐津赤十字病院分含む）

品 名	数 量	品 名	数 量
救 急 車	2台	発 電 機	4基
災 害 救 援 車	8台	投 光 器	5台
災 害 連 絡 車	2台	防 雨 ヘ ッ ド ラ ン プ	40個
医 療 セ ッ ト	5組	防 護 用 ゴ ー グ ル	40個
担 架	20台	折 り 畳 み リ ヤ カ ー	2台
簡 易 ベ ッ ド	30台	浄 水 器	1台
患 者 用 毛 布	350枚	無 線 基 地 局 (150MHZ)	3局
折 り 畳 み 舟 艇	1隻	車 載 無 線 機 (〃)	27台
パ イ プ テ ン ト	7張	携 帯 無 線 機 (〃)	14台
ドラッシュテント	1セット	無 線 基 地 局 (400MHZ)	1局
エ ア ー テ ン ト 大	2セット	車 載 無 線 機 (〃)	8台
エ ア ー テ ン ト 小	2セット	携 帯 無 線 機 (〃)	14台
イージーアップ・テント	22張	自 動 体 外 式 除 細 動 機 (AED)	3台

品 名	数 量	品 名	数 量
デジタル個人線量計	42個	N B C 災害除染セット	1セット
防護服セット	42セット	非常用炊き出し釜	24台
災害救護用パソコン	1台	空間線量率測定用サヘイメータ	1台
災害用トイレ	1据	災害救護用通信機器(Wifi)	1機

イ 救援物資の備蓄状況（地区分区備蓄分含む）

品 目	年度当初	納 入	配 分	年度末備蓄
毛 布(枚)	2,020	0	633	1,387
タオルケットセット(組)	465	0	225	240
バ ス タ オ ル(枚)	790	0	195	595
緊 急 セ ッ ト(個)	423	0	78	345
安 眠 セ ッ ト(組)	389	0	12	377
ブ ル ー シ ー ト(枚)	208	0	22	186
非 常 食(食)	1,443	0	392	1,051



災 害 救 護 用 車 両

(6) 災害見舞金・見舞品の贈呈

令和元年度は、床上浸水及び火災等により罹災された493世帯に対し、次のとおり救援品及び見舞金・弔慰金を贈呈しました。



毛布・安眠セット



緊急セット

令和元年度に提供した見舞金等

市郡名	世帯数	毛布	タオル ケット セット	バス タオル	緊急 セット	安眠 セット	ブルー シート	見舞金等 (円)
佐賀市	213	456	0	456	224	0	0	100,000
唐津市	4	9	0	9	4	0	0	20,000
鳥栖市	21	48	0	48	23	0	0	10,000
多久市	2	0	0	0	0	0	0	20,000
伊万里市	3	5	0	5	2	0	0	20,000
武雄市	4	8	0	8	4	0	0	40,000
鹿島市	3	5	0	5	2	0	0	30,000
小城市	2	3	0	3	2	0	0	20,000
嬉野市	2	9	0	9	3	0	0	10,000
神埼市	1	1	0	1	1	0	0	10,000
吉野ヶ里町	0	0	0	0	0	0	0	0
基山町	0	0	0	0	0	0	0	0
みやき町	0	0	0	0	0	0	0	0
上峰町	0	0	0	0	0	0	0	0
有田町	3	6	0	6	3	0	0	30,000
大町町	0	0	0	0	0	0	0	0
江北町	0	0	0	0	0	0	0	0
白石町	2	7	0	7	3	0	0	10,000
太良町	1	0	0	0	0	0	0	10,000
玄海町	1	0	0	0	0	0	0	0
計	493	557	0	557	271	0	0	330,000

(7) 国内義援金

令和元年度に国内で発生した地震・豪雨・台風などによる災害被災者に対し、県民の皆様から次のとおり義援金が寄託されたので、日赤本社並びに被災県の日赤支部（被災県の配分委員会）を通じて被災者に届けられました。

内 訳	件 数	金 額 (円)
東日本大震災義援金	45	1,586,394
平成28年熊本地震義援金	66	1,084,436
平成29年7月5日からの大雨災害義援金	37	374,717
平成30年7月豪雨災害義援金	86	2,231,876
平成30年北海道胆振東部地震災害義援金	52	329,004
令和元年8月豪雨災害義援金	846	353,233,405
令和元年台風第15号千葉県災害義援金	36	475,900
令和元年台風第15号東京都義援金	2	105,000
令和元年台風第19号災害義援金	160	13,601,529
合 計	1,330	373,022,261

(8) 臨時救護

さが桜マラソンや有田陶器市など公共性が高く、多人数が参加するスポーツ大会やイベント等において、主催者側と協働し次のとおり救護班(員)を派遣しました。



県内一周駅伝救護

救護班(員)派遣状況

派遣回数	派遣延日数	派遣人数(医師・看護師・主事・赤十字奉仕団)	応急手当をした人
11回	18日	43名	15名

2 海外における救援活動や開発協力

現在世界では、相次ぐ紛争や頻発する自然災害、急速に進む人口増加や深刻な貧困により、1億人以上もの人々が命をつなぐための支援を必要としています。

さらに、度重なる紛争や暴力により避難を余儀なくされる人々の数も第二次世界大戦以降最悪の水準に達しています。

日本赤十字社は、世界192の国や地域の赤十字社・赤新月社の有力な一員として強固なネットワークのもと、こうした紛争や災害の犠牲者に対する緊急救援や復興支援をはじめ、開発途上国における貧困や保健衛生の改善、減災対策など、中長期的な開発支援活動に取り組み、人道的任務の達成に努めています。

○独立国	195カ国（日本政府承認）
○国連加盟国	193カ国
○国際赤十字・赤新月社連盟加盟国	192カ国
（赤十字157カ国、赤新月社34カ国、ダビデの赤盾社1カ国）	



日赤看護師がバングラデシュ赤看護師による診療を支援

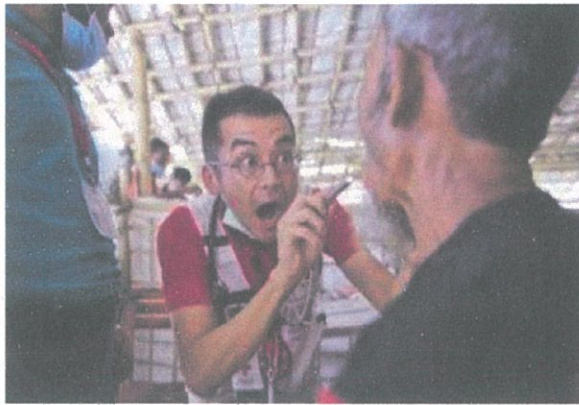


救急法について学ぶ地域保健ボランティア

（1）本社の活動

日本赤十字社は、紛争や災害の被災者、難民等を救援するために国際赤十字や国内の赤十字組織と連携しながら、医療救護要員や開発支援要員を養成・派遣するとともに、物資や資金の提供など緊急支援や中長期的な支援活動を迅速かつ計画的に実施しています。

これらの事業に要する資金は、国民の皆様から日赤本社及び各都道府県支部に寄せられる尊い社資・寄附金（災害救援金）・NHK海外たすけあい募金や国際救援金とその財源となっています。



バングラデシュ南部避難民支援



コレラの治療をする日赤医師

ア 最近の日本赤十字社による主な緊急救援・復興支援実施事業

事業名	実施年	実施内容
インドネシア・スラウェシ島地震救援	2018～	保健医療アドバイザー派遣、支援物資の配付、救援活動資金拠出
バングラデシュ南部避難民救援	2017～	医療チーム派遣、支援物資の配付、救援活動資金拠出
ネパール地震救援・復興支援	2015～	医療チーム派遣、支援物資の配付、救援活動資金拠出
西アフリカエボラ出血熱救援	2014～	医療要員の派遣、救援活動資金拠出
フィリピン中部台風救援・復興支援	2013～	医療チーム派遣、支援物資の配付、救援活動資金拠出
中東（シリア他）人道危機救援	2011～	救援活動資金拠出、医療要員等の派遣

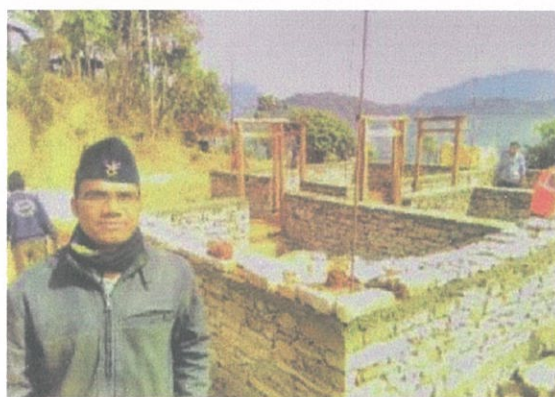
イ 最近の日本赤十字社による主な長期的人道支援の取り組み

事業名	実施年	実施内容
フィリピン保健医療支援事業	2005～ 2019	住民への健康教育、子どもに対する衛生教育の実施と衛生キットの配付、保健所や水道・トイレ等の建設や修復、医薬品の配付等
インドネシア・コミュニティ防災事業	2012～ 2019	地域住民への啓発、学校における防災活動、リスクマップに基づくリスク軽減計画の策定、行政への働きかけ等
ネパール・コミュニティ防災事業	2012～ 2019	防災研修・防災計画の策定、緊急対応用の備品整備、救援基金の設置、衛生教育、給水・衛生設備の建設支援、生計支援等

ルワンダ気候変動等レジリエンス強化事業	2019～ 2020	保健衛生栄養知識の普及、貧困世帯への生計支援、給水・衛生設備の建設支援、バイオマス燃料等の普及、棚田・緑化事業、防災教育、支部体制強化、モニタリング・評価資料の作成と行政や他団体への普及
国際赤十字・赤新月社連盟を通じた支援	2019	連盟が支援する各国赤十字社の開発事業への資金拠出（アフガニスタンの地域保健強化、東アフリカ地域の保健強化、南部アフリカ地域の感染症対策、大洋州地域の災害対策、モンゴル赤十字社の組織強化等）



フィリピンでの手洗い指導



ネパールにて耐震性モデル住宅を建設するエンジニア

（２）佐賀県支部の活動

ア 国際救援活動

令和元年度（平成31年度）に県民から寄せられた国際救援金は、日赤本社に送金し、被災国の緊急支援事業及び復興支援事業に役立てられました。

※支部直接扱い分

内 訳	件 数	金 額 (円)
中東人道危機救援金	1	3,519
バングラデシュ南部避難民救援金	6	34,810
「NHK海外たすけあい」寄附金	257	1,006,951
2019年モザンビーク サイクロン救援金	1	10,000
計	265	1,055,280

イ 「海外たすけあい」運動

日本赤十字社はNHKとの共催により、「第37回海外たすけあい」キャンペーンを、12月1日から12月25日まで実施しました。佐賀県支部では12月14日（土）

に県内9ヶ所において赤十字奉仕団員、有功会員、青少年赤十字メンバー、企業の社員など約350名の参加を得て街頭募金活動を実施しました。

令和元年度の「海外たすけあい」では、本県で、3,811,756円、全国では約6億6千万円の寄附金が寄託され、世界各地の紛争や自然災害などで苦しむ人々のために活用されています。

「海外たすけあい」街頭募金活動の実績

会 場		実績額
佐賀市	J R佐賀駅	80,951 円
	ゆめタウン佐賀	149,779 円
	イオン佐賀大和店	47,433 円
唐津市	イオン唐津店	76,846 円
伊万里市	ダイレックス伊万里松島店	19,264 円
鳥栖市	J R鳥栖駅	17,553 円
	フレスポ鳥栖	144,174 円
	ダイレックスライフガーデン鳥栖店	19,319 円
三養基郡	Mr Max 北茂安店	47,645 円
合 計		602,964 円





久光製薬（株）社員の皆様

ウ 安否調査

日本赤十字社では、災害発生時や有事の際に在住・滞在する外国人の安否調査を赤十字国際委員会（I C R C）や各国の赤十字社と連携・協力して行い、そこで見つかった家族の再会（離散家族の再会）ができるようにしています。

このほかに、紛争などで連絡手段を絶たれた人々や抑留された人々が I C R C を通じて離れた家族と交わす手紙（赤十字通信）を、日本国内に住む宛先人まで届けるなどの活動を行っています。

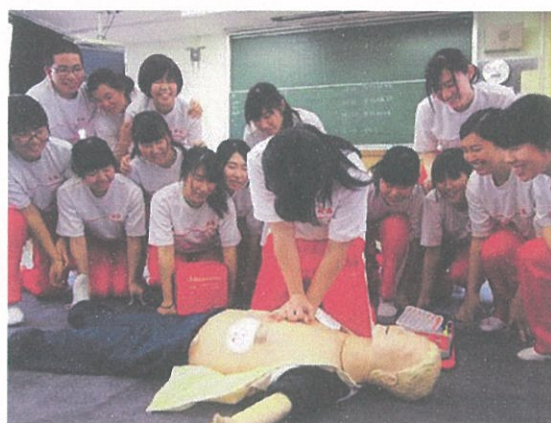
3 赤十字の講習事業の普及

「苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、いかなる状況下でも、人間のいのちと健康、尊厳を守る」という使命に基づき、県内各地で人命を救う方法や健康で安全に暮らすための知識や技術を伝える講習会を実施しました。

(1) 救急法

日常生活における事故防止や手当の基本、胸骨圧迫や人工呼吸の方法、AEDを用いた除細動、止血の仕方、包帯の使い方、骨折などの場合の固定、搬送、災害時の心得などについての知識と技術を習得できるよう、最新の国際的ガイドラインや指針に基づいた講習を開催しました。

(受講者数 3,078人)



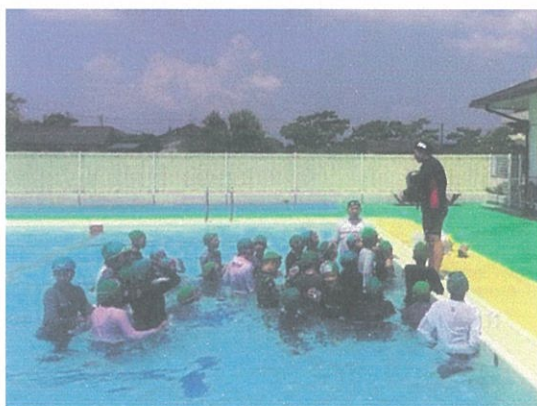
救急法講習実施状況

講習種別	実施回数	受講者数	修了者数	合格者数
救急法基礎講習	11回	220人	220人	220人
救急員養成講習	9回	179人	179人	179人
短期講習	53回	2,679人		

(2) 水上安全法

水の事故から尊い人命を守るために必要な泳ぎの基本と自己保全、事故防止、溺れた人の救助、応急手当の方法、着衣泳など、自分自身の安全を保ちながら、安心して水と楽しく関わるための知識と技術を普及しました。

(受講者数 1,074人)



水上安全法講習実施状況

講習種別	実施回数	受講者数	修了者数	合格者数
救助員Ⅰ養成講習	0回	※豪雨災害対応のため中止		
短期講習	15回	1,074人		

(3) 健康生活支援講習

健やかな高齢期を過ごすために役立つ知識や、家庭や地域での高齢者支援に役立つ知識・技術の習得と実践を通して、健康維持・増進の思想と互いに助け合うボランティアの心を育む講習を開催しました。

(受講者数 57人)



健康生活支援講習実施状況

講習種別	実施回数	受講者数	修了者数	合格者数
支援員養成講習	2回	21人	17人	17人
短期講習	2回	36人		

(4) 幼児安全法

子どもの尊い生命を守り、社会全体で子どもを大切に育てるために、子どもに起こりやすい事故に対する事故防止と手当の方法、家庭内での看病の方法に加え、災害時の乳幼児支援についての知識や技術を普及しました。

(受講者数 655人)



幼児安全法講習実施状況

講習種別	実施回数	受講者数	修了者数	合格者数
支援員養成講習	3回	40人	39人	39人
短期講習	30回	615人		

(5) 指導員研修会

赤十字講習の知識・技術・指導法の維持向上を目的とする指導員研修会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止しました。

指導員在籍状況

講習種別	ボランティア	支部	病院	血液センター	本社	計
救急法指導員	56	5	5	3	0	69
水上安全法指導員Ⅱ	24	2	0	2	1	29
健康生活支援講習指導員	1	1	4	3	0	9
幼児安全法指導員	15	1	2	2	0	20

4 青少年赤十字（JRC）の活動

青少年赤十字活動は、幼稚園・保育園、小・中・高等学校・特別支援学校の児童生徒が、学校教育や日常生活の中で赤十字精神を身につけ、世界の平和と人類の福祉に貢献できるよう実践と体験を基にした学習を学校や地域において実践しています。



高校生メンバーによる街頭募金活動

《態度目標》

「気づき・考え・実行する」

《3つの実践目標》

- ・生命と健康を大切にする（健康・安全）
- ・人間として社会のため、人のためにつくす責任を自覚し、実行する（奉仕）
- ・広く世界の青少年を知り、仲良く助けあう精神を養う（国際理解・親善）

青少年赤十字活動は、県・市町の教育委員会、青少年赤十字加盟校で構成する青少年赤十字指導者協議会、青少年赤十字賛助奉仕団、青年赤十字奉仕団との一体的取り組みにより行われています。



フィールドワーク（トレセン小学生の部）



防災教育グループワーク（トレセン高校生の部）

（1）青少年赤十字加盟校の構成

ア 登録状況

（令和2年3月31日現在）

校 種	加 盟 校 数	メ ン バ ー 数	指 導 者 数
幼稚園・保育園	7	829	69
小 学 校	122	26,503	1,452
中 学 校	77	20,618	1,194
義務教育学校	6	2,227	157
高 等 学 校	37	9,312	393
特別支援学校	3	206	147
合 計	252校（園）	59,695	3,412

イ 青少年赤十字加盟校一覧

(令和2年3月31日現在)

市 郡 名	幼・保・小学校	中学校	高等学校・特別支援学校	計
佐 賀 市	博愛の里こども園、 ちえんかん保育園、 本庄幼稚園、 鍋島幼稚園、 嘉瀬保育園、 春日、新栄、思斉 中川副、大詫間、 南川副、西川副 東与賀、久保泉 31 佐大附属、富士 若楠、諸富北 北山東部、本庄 巨勢、日新、金立 諸富南、三瀬、 高木瀬、西与賀 嘉瀬、松梅、勸興 赤松	佐大附属、城南、昭栄 城東、金泉、諸富、富士 三瀬、大和、川副、城北 17 東与賀、佐賀清和、鍋島 松梅、思斉、弘学館	佐賀東、佐賀工業 龍谷、北陵、佐賀北 佐賀女子、佐賀学園 佐賀商業、高志館 15 致遠館、佐賀西、 清和、弘学館、佐賀星 生学園、盲学校	63
唐 津 市	大良、平原、成和 湊、鏡山、打上 馬渡、呼子、田野 外町、長松、久里 切木、大志、簗木 鬼塚、佐志、玉島 29 竹木場、北波多 浜崎、西唐津、 東唐津、相知、 納所、入野、小川 すみれ幼 七山	第一、鏡、鬼塚、 佐志、相知、肥前、七山、 西唐津、馬渡、小川 17 高峰、海青、第五、厳木 浜玉、湊、唐津東	唐津東、唐津南、 唐津西、厳木 6 唐津工、唐津特支分校	52
鳥 栖 市	基里、田代、若葉 弥生が丘、麓 8 鳥栖北、旭、鳥栖	基里、田代、鳥栖西、 鳥栖、香楠 5	鳥栖、鳥栖商 2	15
多 久 市	ひしのみこども園 1	西溪校、中央校、東部校 (義務教育学校) 3	多久 1	4
伊 万 里 市	大坪、黒川、滝野 松浦、波多津、 立花、山代東、 13 牧島、山代西、 二里、伊万里、 大川内、大川	青嶺、山代、国見、 啓成、東陵、滝野、 伊万里、 8 南波多郷学館(義務教育 学校)	伊万里商業、敬徳 2	23
武 雄 市	北方、西川登、 朝日、若木、 5 山内東	山内、武雄、北方 3	武雄 1	9
鹿 島 市	鹿島、七浦、浜、 能古見、明倫、 6 北鹿島	東部、西部 2	鹿島実業、鹿島 2	10

市 郡 名	幼・保・小学校	中学校	高等学校・特別支援学校	計
小 城 市	芦刈、岩松、桜岡 晴田、砥川、牛津 8 三日月、三里	小城、牛津、芦刈、 三日月 4	牛津 1	13
嬉 野 市	吉田、大野原 大草野 5 轟、久間	吉田、大野原、嬉野 塩田 4	嬉野 1	10
神 埼 市	神埼、脊振、 西郷、仁比山 千代田西部、 千代田中部 千代田東部 7	神埼、千代田、脊振 3	神埼、神埼清明 2	12
三養基郡	北茂安、三根西 三根東、中原、 上峰、若基、基山 7	三根、上峰、北茂安、 中原、基山 5	三養基、中原特別支援 2	14
神 埼 郡	三田川、東脊振 2	三田川、東脊振 2	0	4
東松浦郡		玄海みらい学園 (義務教育学校) 1	唐津青翔 1	2
西松浦郡	有田中部 1	有田、西有田 2	0	3
杵 島 郡	六角、白石、有明 東、江北 4	白石、福富、江北、有明 大町ひじり学園 (義務教育学校) 5	白石、佐賀農業、 杵島商業 3	12
藤 津 郡	大浦、多良 2	大浦、多良 2	太良 1	5
計	幼・保 7 小学校 122	義務教育学校 6 中学校 77	特別支援 3 高校 37	252

※ 小・中・高校の J R C 加盟校は、全体の約80%で全国平均の約34%を大きく上回っています。

※ 義務教育学校 6 校は、中学校に統合し、小学校は 6 校減

ウ 青少年赤十字登録式

佐賀県青少年赤十字賛助奉仕団員や佐賀県青年赤十字奉仕団が出席し、15校（1園）で登録式が開催され、赤十字の歴史や考え、赤十字の活動、青少年赤十字の取り組み方などについて講話を行いました。

（２）活動状況

ア 指導者対象

（ア）青少年赤十字トレセン指導者養成講習会（本社）

期日・場所 5月24日（金）～5月26日（日）

「国立オリンピック記念センター」

（東京都渋谷区代々木神園町3-1）

参 加 者 荒巻 亘（佐賀女子高等学校教諭：指導者協議会幹事）

(イ) 全国青少年赤十字研究会（本社）

期日・場所 1月9日（木）

「日赤本社」（東京都港区芝大門1-1-3）

参 加 者 松尾 直子 指導主事（佐賀県教育庁学校教育課）

加藤 裕治 指導主事（西部教育事務所）

(ウ) 青少年赤十字指導者中央講習会（本社）

期日・場所 11月23日（土）

日赤本社（東京都）

参 加 者 富永泰宏（西部中学校教諭：指導者協議会幹事）

(エ) 九州ブロック青少年赤十字指導者養成講習会（鹿児島県支部主催）

期日・場所 8月22日（木）～8月24日（土）

「シーサイドガーデンホテルカクシアくしきの」

（鹿児島県いちき串木野市長崎町101）

参 加 者 石井 彩（千代田中部小学校教諭：指導者協議会幹事）

(オ) 全国指導者協議会総会（本社）

期日・場所 6月24日（月）～25日（火）

日赤本社（東京都）

参 加 者 石田 正紹（赤松小学校長：指導者協議会会長）

(カ) 6ブロック指導者協議会長・支部担当者合同会議

期日・場所 11月15日（金）～16日（土）

日赤鹿児島県支部（鹿児島県）

参 加 者 石田 正紹（赤松小学校長：指導者協議会会長）

秋山 芳美（佐賀県支部職員）

(キ) 県指導者協議会役員会（第1回）

期日・場所 5月9日（木）

メートプラザ佐賀

参 加 者 数 29名

(ク) 県指導者協議会総会

期日・場所 5月9日（木）

メートプラザ佐賀

参 加 者 数 97名

(ケ) 県指導者協議会役員会（第2回）

期日・場所 2月28日（金）

日赤佐賀県支部

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

(コ) 佐賀県青少年赤十字指導者育成研修会

期日・場所 6月14日～15日

「黒髪少年自然の家」（武雄市山内町宮野1888-54）

参加者数 4名（修了者3名（1名は1日目のみ参加）

／中堅教諭等資質向上研「選択研修」参加者0名）



赤十字と青少年赤十字



フィールドワーク「暗黒の国」



グループワーク発表

(サ) 佐賀県青少年赤十字指導者協議会 第3回理事研究会

期日・場所 6月14日

「黒髪少年自然の家」（武雄市山内町宮野1888-54）

※指導者育成研修会と同会場にて同日開催

参加者数 8名



青少年赤十字防災教育プログラム
ドローイング・チャレンジ体験



青少年赤十字防災教育プログラム
災害時シミュレーション体験

(シ) 佐賀県青少年赤十字加盟校長等研修会

期日・場所 10月17日

「メートプラザ佐賀」（佐賀市兵庫町藤木1006-1）

参加者数 131名



講演「学校教育と青少年赤十字について」



青少年赤十字防災教育プログラムの体験

イ メンバー対象

(ア) 国際交流事業

第6ブロック海外派遣事業（派遣国：ベトナム社会主義共和国）

青少年赤十字の実践目標である「国際理解・親善」の一環として、毎年実施している九州ブロック海外派遣事業は、今年度は沖縄県支部の担当により、8月17日から23日まで、ベトナム社会主義共和国（ハノイ、ハロン等）に青少年赤十字メンバー、指導者など29名を派遣しました。

ベトナム赤十字社への表敬訪問、現地JRCメンバーとの交流や日本赤十字社が行っている支援事業等の視察・体験を行いました。

（本県支部からの参加者）

- ・指導者 井手 久志（唐津市立七山小学校 教諭）
- ・メンバー 古賀 千寛（佐賀県立致遠館高等学校 2年）
北川 日菜（佐賀県立白石高等学校 2年）



ベトナム赤十字メンバーと歓迎レセプション



マングローブ植樹体験

(イ) 青少年赤十字スタディ・センター（本社）

期日・場所 3月22日～26日

「東照館」（山梨県南都留郡山中湖村平野210）

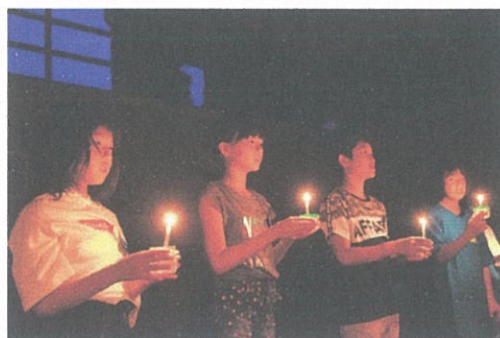
参 加 者 上野 聖哉 （佐賀立白石高等学校 2年）
原田 愛奈 （佐賀県立致遠館高等学校 1年）

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

(ウ) 青少年赤十字リーダーシップ・トレーニングセンター（宿泊訓練）の実施

小・高等学校において、青少年赤十字活動をはじめ、学校生活でのリーダーを養成するため、リーダーシップ・トレーニングセンターを実施しました。（※中学校は台風接近のため中止）

小学生は2泊3日、高校生は台風接近のため1泊2日の日程でボランティア活動、フィールドワーク、救急法講習、ワークショップなどの体験学習を行いました。



キャンドルサービス

校 種	期 間 (2泊3日)	参加 者数	指導 者数	参 加 校 名
小学校の部	8月1日(木) 〃 8月3日(土)	33人	15人	中川副小、附属小、佐志小、七山小 鏡山小、西唐津小、小川小(7校)
高等学校の部	8月4日(日) 〃 8月5日(月)	20人	10人	佐賀女子高、白石高、 多久高、致遠館高(4校) ※台風接近のため1泊2日で実施
中学校の部	8月6日(火) 〃 8月8日(木)	96人	64人	三田川中、三根中、中原中、東脊振中、 上峰中、三瀬中、有明中、東原摩舎中央校、 鍋島中、東与賀中、大和中、附属中、神埼中、 川副中、三日月中、城北中、山代中、有田中、 浜玉中、鳥栖中、海青中、西唐津中、 南波多郷学館、伊万里中、北茂安中、西部中、 東原摩舎東部校、鬼塚中、千代田中、田代中、 基山中(31校) ※台風接近のため中止



レクリエーションと仲間づくり



トレンピック「毛布リレー」

(エ) 博愛フェスタでの博愛発表会
12月1日から12月15日まで、佐賀市川副町の「佐野常民記念館」で開催された「博愛フェスタ2019」に、地元川副町の川副中学校と富士小学校、鍋島中学校、県立多久高等学校のJRCメンバー代表が参加し、青少年赤十字加盟校としての活動を発表しました。



佐賀市立西与賀小学校の代表による
青少年赤十字活動の報告

(オ) 国内交流（千葉県JRCと中川副小学校との交流会）

毎年2月に千葉県JRCメンバーが佐野常民ゆかりの地をめぐる研修として国内交流事業で中川副小学校の5年生と交流会を行い、お互いの県の特産品や有名なもの、JRC活動の紹介をしたり、「三重津かるた」で楽しんだりして交流を深めています。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止となりました。

(カ) 優良メンバー、グループ表彰

青少年赤十字活動が特に顕著であった学校に対し、各学校長の推薦により、今年度は下記メンバー及びグループを表彰しました。

<優良メンバー表彰> 7名

氏 名	学 校 名	氏 名	学 校 名
金子和佳奈	唐津市立佐志小学校	渡邊 碧	神崎市立脊振中学校
光延 楓	佐賀女子高等学校	吉田 梨乃	佐賀女子高等学校
塚原 愛華	佐賀女子高等学校	吉富美菜子	佐賀県立白石高等学校
古賀 琴巳	佐賀県立商業高等学校		

<優良グループ表彰> 7団体

グループ名	グループ名
唐津市立佐志小学校6年1組	唐津市立佐志小学校6年2組
神崎市立脊振中学校生徒会	神崎市立千代田中学校卒業生一同
武雄市立武雄中学校生徒会	佐賀県立多久高等学校JRC部3年
佐賀県立白石高等学校JRC部	

(キ) JRC高校生メンバー協議会活動（月定例会の活動）

高校メンバー協議会は、月1回佐賀県支部等において定例会を開催し、「健康・安全」、「奉仕」、「国際理解・親善」などの活動を実施しています。



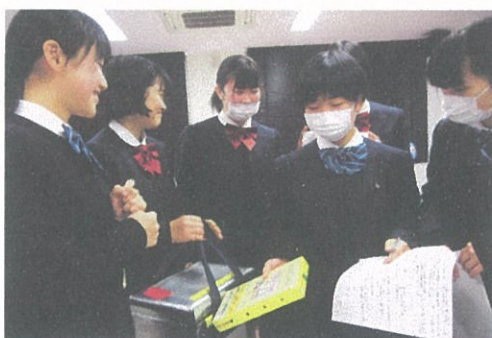
防災DAY（災害食作り体験）



国際理解・親善の会



献血募集呼びかけ



血液センター見学

ウ その他の活動

(ア) 青少年赤十字継続加盟校に対する感謝状の贈呈（10年・5年）

10月17日にメートプラザ佐賀で開催しました、青少年赤十字加盟校長等研修会開催において、青少年赤十字継続加盟校に対する感謝状の贈呈を行いました。

- ① 10年以上継続校（園） 4校 ② 5年～9年継続校（園） 22校

(イ) 青少年赤十字賛助奉仕団による加盟校に対する「イトスギ」贈呈

青少年赤十字加盟校長等研修会時において、加盟校に対し賛助奉仕団が育苗した糸杉の贈呈を行いました。

「糸杉」は赤十字・青少年赤十字のシンボルツリーであり、県内で加盟歴の長い学校から順に、平成24年度より贈呈を行っています。

○「糸杉」贈呈校（加盟年数）

- | | |
|--------------|--------------|
| ① 佐賀市立諸富北小学校 | ② 鳥栖市立基里小学校 |
| ③ 唐津市立佐志小学校 | ④ 嬉野市立吉田小学校 |
| ⑤ 佐賀市立富士小学校 | ⑥ 嬉野市立大野原小学校 |



- ⑦ みやき町立中原中学校 ⑧ 鳥栖市立鳥栖西中学校
⑨ 佐賀清和中学校 ⑩ 佐賀県立佐賀西高等学校

(ウ) 青少年赤十字防災教育プログラム「まもるいのち ひろめるぼうさい」

6月13日(木)塩田中学校にて全校生徒と教職員を対象とした防災セミナーを開催しました。「台風・豪雨災害について」、「局地的大雨について」「命を守る備え(情報)」の3つの柱で青少年赤十字防災教育プログラム「まもるいのち ひろめるぼうさい」のDVDを上映しながら45分の防災講話を実施しました。

(エ) 幼稚園、保育園向け防災教材「ぼうさいまちがいさがし きけんはっけん」

1月15日(水)、鍋島幼稚園職員に対して防災教育の研修会を実施しました。防災講話と「きけん はっけんシート」を活用して、地震から自分の身を守る行動を考え、身を守るための基礎的な知識や判断力を身につけることを目標にした防災保育を紹介しました。



(オ) 青少年赤十字加盟校等で行われた義援金・救援金募集(支部扱い分)

義 援 金 ・ 救 援 金 名	件数 (校)	金 額 (円)
東日本大震災義援金	0	0
熊本地震義援金	2	17,269
平成29年九州北部大雨災害義援金	2	1,654
平成30年7月豪雨災害義援金	3	31,899
平成30年北海道胆振東部地震災害義援金	3	65,150
令和元年台風15号千葉県災害義援金	2	49,434
令和元年台風15号東京都義援金	0	0
令和元年台風19号災害義援金	8	104,529
令和元年8月豪雨災害義援金	76	1,867,871
中東人道危機救援金	1	3,519
バングラデッシュ南部避難民救援金	1	1,616
「NHK海外たすけあい」寄附金	4	40,414
1円玉募金	1	2,545
合 計	103	21,185,900

5 赤十字ボランティアによる活動

赤十字奉仕団は、人道博愛の赤十字精神に賛同し、赤十字の使命とする人道的な諸活動を実践しようとする人々が集まって結成された奉仕者の組織です。

佐賀県支部では、地域赤十字奉仕団のほか青年赤十字奉仕団と特殊赤十字奉仕団が組織され、様々な活動を展開しています。また、奉仕団同士が、より主体的・積極的に活動できるよう連携強化のため「佐賀県赤十字奉仕団委員長連絡会議」を設置しています。

(1) 地域赤十字奉仕団

本県の地域赤十字奉仕団は、市地区・町分区において地域婦人会を中心に結成されており、災害が発生した場合には地域において機動的に救援活動等を行う重要な奉仕団です。

ア 結成状況

(令和2年3月31日現在)

団 名	団数	団員数	委員長
佐賀県地域赤十字奉仕団	32 団	4,526 名	三 苦 紀美子

イ 一品供出金運動

災害等に遭われた被災者に救援の手を差し延べ生活再建を支援するため、救援資金として毎年団員一人当たり 20 円が拠出されています。

また、12 月に実施される NHK 海外たすけあいにおいても一品供出金から寄附金を送っています。

NHK 海外たすけあい寄附金・・・・・・・・・・ 30,000 円

(2) 青年赤十字奉仕団

若い力と行動力を社会に役立てようと学生等で結成された組織で、「防災/減災啓発」、「HIV/AIDS 感染予防啓発」、「JRC 活動支援」、「献血推進」、「その他奉仕活動」など、様々な活動を展開しています。

ア 結成状況

(令和2年3月31日現在)

団 名	団員数	委員長
佐 賀 県 青 年 赤 十 字 奉 仕 団	23 名	中 島 克 昌



献血の呼びかけ



団内防災研修（エアテント設営）



防災研修



佐賀インターナショナルバルーンフェスタ会場清掃協力

（３）特殊赤十字奉仕団

特殊赤十字奉仕団は、様々な専門技術を持つ人や、特定の奉仕活動を行おうと集まった人々によって組織されており、それぞれの特徴を生かした活動を実践しています。本県には９つの特殊奉仕団と、日赤本社が直轄する赤十字飛行隊佐賀県支隊があります。



赤十字無線奉仕団活動の様子

ア 結成状況

（令和２年３月３１日現在）

団 名	団員数	委員長
佐賀県赤十字救急法奉仕団	33名	瀬戸 弘美
佐賀県赤十字水上安全奉仕団	25名	佐藤 洋
佐賀県赤十字幼児安全法奉仕団	13名	牛草 達雄
佐賀県青少年赤十字賛助奉仕団	61名	夏秋 正倫

佐賀県赤十字看護奉仕団	25名	門田直子
佐賀県赤十字無線奉仕団	24名	江口信彦
佐賀県赤十字特殊輸送奉仕団	18名	一ノ瀬安信
佐賀県赤十字しゃちの会奉仕団	4名	矢ヶ部登志子
佐賀県赤十字奉仕団「ほっと」	23名	下村京子
(本社直轄) 赤十字飛行隊佐賀支隊	5名	田中正照

(4) 活動状況

ア ボランティアの育成

(ア) 支部または奉仕団主催研修会への参加

① 赤十字ボランティア基礎研修会

期 日	実施主体	会 場	参 加 者
5月11日	青年赤十字奉仕団	日本赤十字社佐賀県支部	15名

② 赤十字ボランティア・リーダーシップ研修会

期 日	実施主体	会 場	備 考
3月1日 (中止)	日本赤十字社佐賀県支部	日本赤十字社佐賀県支部	新型コロナウイルスの影響で中止

③ 第6回佐賀県赤十字奉仕団研修交流会 (支部主催)

奉仕団間の協働や相互支援により各奉仕団の枠を超えた多角的な奉仕活動を展開し、奉仕活動の充実を図ることを目的に平成26年度より研修交流会を開催しています。また、平成29年度より各奉仕団から実行委員を選出し、支部指導講師と実行委員による研修交流会の企画・運営を行っています。



期 日	会 場	参 加 者
10月27日	日本赤十字社佐賀県支部	42名

④ 佐賀県赤十字奉仕団研修交流会実行委員会

回数	期 日	会 場	参 加 者
第 1 回	8 月 18 日	日本赤十字社佐賀県支部	14 名
第 2 回	10 月 5 日	日本赤十字社佐賀県支部	14 名
第 3 回 (反省会)	11 月 30 日	日本赤十字社佐賀県支部	14 名

⑤ HIV/AIDS ビア・リーダー養成研修会（日本赤十字社京都府支部主催）

期 日	会 場	参 加 者
6 月 29 日～30 日	あうる北京 (京都府立ゼミナールハウス)	水田 奈那 (青年奉仕団)

(イ) 本社主催研修会への参加

① 赤十字ボランティア・リーダー研修会（地域・青年・特殊）

期 日	会 場	参 加 者
8 月 24 日～26 日	国立オリンピック記念 青少年総合センター	秋山 芳美 (JRC 賛助奉仕団) 佐藤 央昂 (青年奉仕団)

② 赤十字奉仕団支部指導講師研修会

期 日	会 場	参 加 者
2 月 4 日～6 日	日本赤十字社本社	秋山 芳美 (JRC 賛助奉仕団)

イ ボランティア関係行事

(ア) 支部または奉仕団主催行事

① 佐賀県支部

日付	活 動	参加奉仕団	参加者 ／回数
8 月 1 日 ～ 5 日	青少年赤十字リーダーシップ・ トレーニング・センター援助	青年、JRC 賛助、看護	15 名
12 月 14 日	海外たすけあい募金活動	地域、青年、救急法、 水上安全、幼児安全法、 特殊輸送、看護、 JRC 賛助	55 名
随時	各種赤十字講習普及・指導	救急法、水上安全、 幼児安全	89 回※

随時	防災セミナーの普及・指導	青年、救急法、 水上安全、幼児安全法、 特殊輸送	25 回※
随時	臨時救護（トレセン除く）	看護	3 回 (7 日間)
随時	支部内作業	しゃちの会	月 1 回

※奉仕団員が参加した回数

② 地域赤十字奉仕団

日付	主催者	会 場	活動内容	受講者
4 月 14 日	橘町地域婦人会	橘公民館	赤十字防災セミナー	140 名
4 月 21 日	北方町地域婦人会	北方町公民館	赤十字防災セミナー	250 名
5 月 29 日	佐賀県地域婦人連 絡協議会	アバンセホール	赤十字ボランティア 基礎研修会	300 名
6 月 23 日 ～25 日	佐賀県地域婦人連 絡協議会	日赤山形県支部 他	山形県赤十字奉仕団 視察研修	24 名

③ 青年赤十字奉仕団

日付	主催者	会 場	活動内容	受講者
9 月 14 日	ひとやすみの会	国立病院機構 佐賀病院	5 周年記念イベント 運営スタッフ	5 名
11 月 3 日	青年奉仕団	日本赤十字社 佐賀県支部	団内防災研修会	9 名
11 月 3 日	青年奉仕団	インターナショ ナルバルーン フェスタ会場	環境ボランティア活動	9 名

④ 特殊奉仕団

日付	主催者	会 場	活動内容	受講者
10 月 7 日	無線奉仕団	日本赤十字社 佐賀県支部	通信訓練	7 名
10 月 23 日	福島県賛助奉仕団	日本赤十字社 佐賀県支部	視察研修受入	19 名
随時	ほっと	県内 7 施設	介護施設等におけるケア	-

⑤ 佐賀県赤十字奉仕団委員長連絡会議

日付	会 場	内 容	参加者
4月7日	日本赤十字社佐賀県支部	総会	13名
11月30日	日本赤十字社佐賀県支部	役員会	6名

(イ) ブロック主催行事

① 第6ブロック青年赤十字奉仕団協議会

日付	会 場	参 加 者
6月22日 ～23日	日本赤十字社大分県支部	中島 克昌 (委員長) 吉永 康平 (顧問)

② 第6ブロック奉仕団委員長並びに支部担当課長会議

日付	会 場	参 加 者
1月30日 ～31日	日本赤十字社宮崎県支部	三苫 紀美子 (奉仕団委員長) 原 香織 (支部事業推進課 参事)

(ウ) 本社主催行事等

① 赤十字奉仕団中央委員会

期 日	会 場	参 加 者
5月30日 ～31日	日本赤十字社本社	三苫 紀美子 (地域赤十字奉仕団委員長)

② 青年赤十字奉仕団全国協議会

期 日	会 場	参 加 者
4月20日 ～21日	日本赤十字社本社	石丸 紗矢佳 (副委員長)

ウ その他

(ア) 佐賀県支部赤十字奉仕団指導講師 委嘱

指導講師名	所属奉仕団	委嘱年度
牛草 達雄	救急法奉仕団／幼児安全法奉仕団	H26年度
鈴木 容子	看護奉仕団／幼児安全法奉仕団	H29年度
松崎 かめ代	救急法奉仕団／幼児安全法奉仕団	H29年度
夏秋 正倫	青少年赤十字賛助奉仕団	H30年度
秋山 芳美	青少年赤十字賛助奉仕団	R元年度

(5) 奉仕者功労表彰

ア 日本赤十字社表彰

平成 24 年度九州八県赤十字大会を当県支部が開催したことを契機に、毎年度永年赤十字活動に尽力され、功績のあった奉仕者を表彰しています。

奉 仕 団 名	金 色 有功章 (20 年以上)	銀 色 有功章 (15 年以上)	支部長 感謝状 (10 年以上)	支部長 感謝状 (5 年以上)	計
佐賀県地域赤十字奉仕団	6	0	0	0	6
佐賀県青年赤十字奉仕団	0	0	0	4	4
佐賀県赤十字救急法奉仕団	2	0	0	5	7
佐賀県赤十字水上安全奉仕団	0	8	0	0	8
佐賀県赤十字幼児安全法奉仕団	0	0	0	0	0
佐賀県青少年赤十字賛助奉仕団	0	0	0	0	0
佐賀県赤十字看護奉仕団	0	4	1	0	5
佐賀県赤十字無線奉仕団	0	0	0	2	2
佐賀県赤十字特殊輸送奉仕団	0	0	0	0	0
佐賀県赤十字奉仕団「しゃちの会」	0	0	0	0	0
佐賀県赤十字奉仕団「ほっと」	0	4	0	0	4
(本社直轄) 赤十字飛行隊佐賀支隊	0	0	0	0	0
計	8	16	1	11	36

イ 佐賀県知事表彰

(ア) 種 別 福祉・保健衛生功労

(イ) 受章者 向井 敏子 (佐賀県地域赤十字奉仕団 副委員長)

6 赤十字思想の普及と広報体制の充実

(1) 令和元年全国赤十字大会

令和元年全国赤十字大会が、5月22日(水)明治神宮会館(東京都渋谷区)において、名誉総裁皇后陛下、各名誉副総裁宮妃殿下ご臨席のもと、全国から会員や奉仕団員等の赤十字関係者約1,900人が参列して開催されました。

大会では、名誉総裁皇后陛下から赤十字事業の推進に功績のあった代表13人に有功章、2人に社長表彰が贈られました。

式典では、近衛社長のあいさつ(日赤本社職員代読)をはじめ、齋藤 博則さん(「平成30年7月豪雨災害における日本赤十字社岡山県支部・岡山赤十字病院の活動記録」)、田中 友美乃さん(「Youth On The Move」)から実践活動の報告がありました。

佐賀県からは、特別社員、地区・分区関係者、奉仕団員及び支部職員の計15人が出席しました。



(2) 令和元年度九州八県赤十字大会

毎年、九州八県支部の持ち回りで開催している九州八県赤十字大会が、8月30日(金)長崎県長崎市の長崎ブリックホールで開催予定でしたが、秋雨前線の影響により九州北部各地に被害が発生したことから中止されました。

大会には、日本赤十字社名誉副総裁 寛仁親王妃殿下がご臨席される予定でした。

佐賀県関係受章(彰)者・法人は、金色有功章個人6人、同法人4社、銀色有功章個人9人、同法人7社、日本赤十字社感謝状個人2人、同法人10社でした。

ア 受章(彰)者御芳名 (敬称略、順不同)

(ア) 日本赤十字社感謝状(金色有功章後の社資功労)

【個人】

福山 つや子	(佐賀市)	織田 行高	(多久市)
--------	-------	-------	-------

【法人】

(株)九電佐賀支店	(佐賀市)	佐賀富士ペンディング(株)	(佐賀市)
松尾建設(株)	(佐賀市)	佐賀県有明海漁業協同組合	(佐賀市)
(株)佐賀銀行	(佐賀市)	宮島商事(株)	(唐津市)
(株)アルミス	(鳥栖市)	久光製薬(株)	(鳥栖市)
祐徳稲荷神社	(鹿島市)	(株)神近建設	(嬉野市)

(イ) 金色有功章(社資功労・役職功労)

【個人・社資功労】

富田 徳義	(佐賀市)	古賀 武文	(鳥栖市)
-------	-------	-------	-------

【個人・役職功労】

橋本 康志	(鳥栖市)	福島 厚	(伊万里市)
峰松 伸次	(鹿島市)	中村 秀貴	(藤津郡太良町)

【法人】

国際技術コンサルタント（佐賀市）	（医）松籟会 河畔病院	（唐津市）
（医）きりの内科小児科クリニック	（唐津市）	
（株）中山鉄工所	（武雄市）	

（ウ）銀色有功章（社資功労・役職功労）

【個人・社資功労】

檜垣 南治子	（佐賀市）	大町 幸子	（佐賀市）
宮原 哲巳	（鳥栖市）	末武 和彦	（東松浦郡玄海町）

【個人・役職功労】

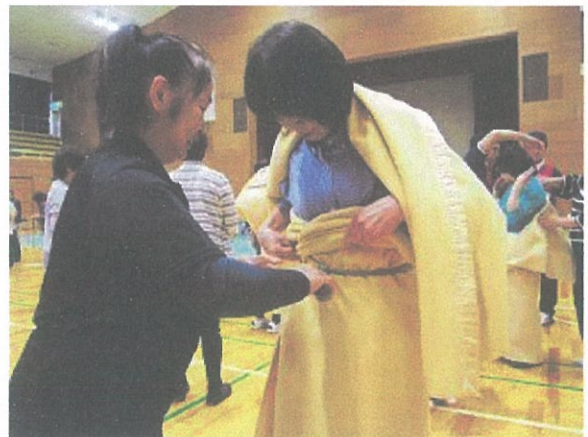
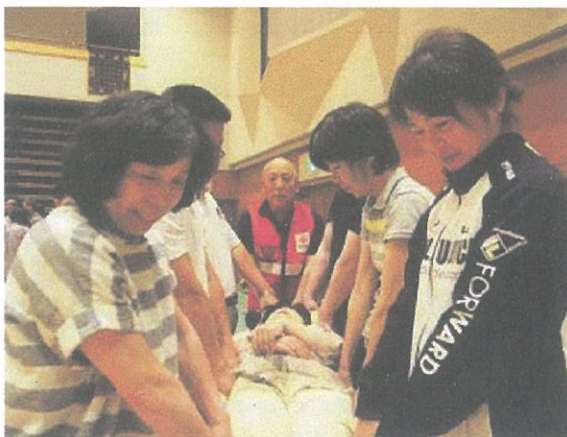
中島 眞由子	（佐賀市）	古賀 滋	（武雄市）
田中 信博	（神埼市）	西田 雄一郎	（三養基郡みやき町）
田島 健一	（杵島郡白石町）		

【法人】

山口クリニック	（佐賀市）	（有）新日東工業	（唐津市）
（医）春陽会 上村病院	（佐賀市）	常盤商事（株）	（佐賀市）
（医）篠田整形外科	（武雄市）	森鉄工（株）	（鹿島市）
（医）祐愛会 織田病院	（鹿島市）	（医）優健会 樋口医院	（嬉野市）
佐賀県立三養基高等学校PTA		（三養基郡みやき町）	

（３）赤十字運動イベント

赤十字月間のイベントとして、一年間を通じて佐賀県内で赤十字運動イベント「防災セミナー」を開催しました。県内の10市地区・10町分区の共催により11会場で742人の参加があり、赤十字活動を理解していただくイベントになりました。



日 時	会 場	地区 分区	参加者
4/24(水) 14:00～14:30	伊万里市民センター 文化ギャラリー	伊万里市	40
		有田町	
5/11(土) 10:00～12:00	江北町B&G体育館	武雄市	80
		大町町	
		江北町	
		白石町	
5/13(月) 13:30～15:30	唐津市文化体育館	唐津市	118
5/15(水) 14:00～16:00	神崎市中央公民館	神崎市	37
		吉野ヶ里町	
5/18(土) 10:00～12:00	太良町 総合福祉保健センター しおさい館	鹿島市	56
		嬉野市	
		太良町	
5/23(木) 10:00～12:00	メートプラザ佐賀 多目的ホール	佐賀市	126
7/2(火) 13:40～14:10	上峰町老人福祉センター おたっしや館	上峰町	40
7/13(土) 9:30～13:00	浜野浦海岸	玄海町	40
7/24(水) 10:40～11:30	鳥栖市社会福祉協議会 適応訓練室	鳥栖市	55
9/25(水) 10:00～13:00	みやき町「こすもす館」	みやき町	21
令和2年 2/8(土) 9:30～13:00	小城市保健福祉センター 「桜楽館」	小城市	129
3/1(日) 9:20～11:00	基山町内	基山町	中止
3/12(木) 10:00～13:00	多久市社会福祉会館	多久市	中止
		合計	742

(4) 博愛フェスタ2019

12月1日から12月15日の期間、佐野常民記念館において、博愛精神の普及と啓発を目的とした川副町、佐賀県支部、佐野常民顕彰会の共催による「博愛フェスタ2019」が開催されました。

このフェスタの中心事業として行なわれた「全国博愛絵画展」には、全国のJRC加盟校等133の小・中学校や4つの絵画教室から応募のあった1,726点の中から97作品

に対し、各賞が授与され、博愛大賞には
発知 聖奈さん（福岡県直方市立上頓野小学
校5年生）の『食べられそうになるアジ』
が選ばれました。入賞者の作品は期間中、
記念館に展示されました。

また、期間中は加盟校4校によるJRC活動
発表会や親子でしめ縄づくり等の多数のイ
ベントが行われたほか、日赤佐賀県支部
は災害食作りを実施しました。



全国博愛絵画展受賞者

（５）佐野祭

佐野常民初代社長の117回忌にあたる
12月7日の命日に、川副町早津江の佐
野常民生誕地において、佐野祭（例年
祭）が執り行われました。

この慰霊祭には、赤十字有功会や
佐野常民顕彰会並びに赤十字施設幹部
職員など赤十字関係者と地元有志など
約60人が参拝しました。

今年も、地元の佐賀市立中川副小学
校の児童も特別に参加し、青少年赤十
字誓いの唱和と、佐野先生を讃える歌
を全員で合唱しました。



佐野祭の様子

（６）防災・減災プロジェクト～私たちは忘れない～

東日本大震災から9年が経過し、今年も「私たちは、忘れない」キャンペーンを展開しました。

主な内容は、本社作成資材を活用した広報活動の実施（ポスター、パネル他）、公式Facebookページによる広報など、広く県民に対し広報活動を実施しました。

（７）その他の広報活動

赤十字思想の普及、事業の紹介及び周知を図るため、次の広報活動を実施しました。
ア 支部発行の機関紙「赤十字さが」80号（春号）を21,000部、81号（秋号）を25,000部作成し、地区・分区を通じ県内全世帯に回覧するとともに、有功章社員はじめ赤十字関係者に配布しました。また、本社が毎月発行している「赤十字NEWS（新聞）」2,000部を赤十字関係者などに配布しました。

支部の事業活動を広く県民に知ってもらうため、広報チラシ342,000枚を作成し、5月の赤十字運動月間中に県下ほぼ全世帯に配布しました。

イ 小、中、高等学校の児童・生徒に赤十字についての理解を深めてもらうため、「赤十字白い羽根シール」を作成し、5月の赤十字運動月間前に配布しました。

ウ 赤十字救急法等各種講習会、イベント等を支部ホームページに掲載したほか、新聞、テレビなどの報道機関に対して内容や日程等を詳しく記載したリリースを送付し、広報の依頼を行いました。

エ 地区区分並びに青少年赤十字加盟校における行事等の際に、支部に常備している事業紹介用パネルを積極的に貸出し、活用してもらいました。

オ 全国でも数少ない佐賀県支部、唐津赤十字病院、佐賀県赤十字血液センター『3施設合同Facebook』に加え、今年度より、特に若年層の利用率が高いInstagramの公式アカウントを作成し、運用を開始しました。

(ア) Facebook

- ① ページに対するいいね数 1,187件
- ② 年間投稿数 137本

(イ) Instagram

- ① フォロワー数 103人
- ② 年間投稿数 37本



『赤十字さが』



赤十字NEWS(新聞)



5月運動月間広報チラシ



3施設合同Facebook

カ 3施設合同広報委員会

支部、唐津赤十字病院、佐賀県赤十字血液センターの若手の職員で構成するこの広報委員会を毎月開催し、「もっとクロス！運動」を具体化するための企画や運営を一体的にすすめています。

特に令和元年度も、昨年度に引き続きリクルートに関するイベントに各施設から職員を派遣し、若年層への赤十字事業の普及を積極的に行いました。

また、委員会メンバーと各施設の広報担当者との連携強化及び広報戦略の共有を行うため、今年度より各施設にて1回ずつ、広報勉強会を実施しました。



3施設合同広報委員会メンバー



広報勉強会の様子（唐津赤十字病院）

キ 赤十字運動月間にかかる広報

5月の赤十字運動月間イベントとして、佐賀県庁において「赤十字レッドライトアップ企画」「懸垂幕の掲示」「パネル展示」「広報ビデオの上映」などを実施し、赤十字の活動を県民の皆様にも周知する機会となりました。



赤十字レッドライトアップ（佐賀県庁）



パネル展示（佐賀県庁）

7 活動資金募集の推進と財政基盤の強化

(1) 会 員 数

平成30年度と令和元年度の会（社）員（個人・法人）数は、次のとおりです。

【個人】

区 分		平成30年度	令和元年度	増 減
会 (社) 員	金色有功章	258	256	△ 2
	銀色有功章	371	365	△ 6
	特 別 社 員	4, 092	4, 025	△ 67
	会 員	1, 194	1, 115	△ 79
	協 力 会 員	224, 989	227, 470	2, 481
計		230, 904	233, 231	2, 327

【法人】

区 分		平成30年度	令和元年度	増 減
会 (社) 員	金色有功章	265	268	3
	銀色有功章	492	491	△ 1
	特 別 社 員	1, 369	1, 373	4
計		2, 126	2, 132	6

(2) 赤十字会員増強運動

日本赤十字社はその活動理念である人道的使命を達成するために、国の内外において積極的に活動を展開し、毎年着実にその成果をあげていますが、赤十字の多岐にわたる事業活動は、会員をはじめ、県民が拠出する「活動資金」によって支えられています。会員組織の拡充強化は赤十字事業の普及と発展をもたらす最大の原動力であるので、日本赤十字社の事業について一層の理解と協力を図る必要があります。

このため、赤十字会員募集は年間を通じて行っていますが、特に、5月を「赤十字会員増強運動月間」として、地区・分区並びに地域の奉仕者をはじめ自治会や町内会など関係各位の協力を得て、会員の確保、活動資金の増強に努めました。

ア 地区・分区事務長会議

令和元年7月5日（金）、日赤県支部において1回目の地区・分区事務長会議の開催し、平成30年度の事業報告、平成30年度一般会計歳入歳出決算について説明するとともに、赤十字運動イベント「防災セミナー」協力要請、九州八県赤十字大会について説明を行いました。

また、令和2年2月27日（木）、日赤県支部において2回目の事務長会議を開催し、令和元年度の中間業務報告、令和2年度事業計画、令和2年度一般会計歳入歳出予算について説明するとともに、赤十字運動イベント「防災セミナー」への協力を要請しました。



（３） 令和元年度活動資金募集実績

ア 総括表

（令和2年3月31日現在）単位：円

区 分	平成30年度(A)	令和元年度(B)	B/A	%
一 般 社 資	119,099,671	112,989,362		94.9
支部扱	17,413,339	10,570,219		60.7
一 般	17,123,339	9,000,219		52.6
使途指定	290,000	1,570,000		541.4
地区分区扱	101,686,332	102,419,143		100.7
法 人 社 資	13,864,365	13,438,775		96.9
支部扱	12,637,165	12,266,957		97.1
一 般	12,537,165	12,166,957		97.0
使途指定	100,000	100,000		100.0
地区分区扱	1,227,200	1,171,818		95.5
合 計	132,964,036	126,428,137		95.1
※使途指定を除く	132,574,036	124,758,137		94.1

※ 使途指定とは、唐津赤十字病院並びに佐賀県赤十字血液センターに対する医療機器等整備のための特定寄付金。

8 支部評議員会の開催

(1) 平成31年度支部評議員会文書審議 平成31年4月1日提出

第1号議案 日本赤十字社佐賀県支部監査委員（西 清澄氏）の選出について

(2) 令和元年度第1回支部評議員会 令和元年6月6日開催（於 支部会議室）

第1号議案 平成30年度事業報告について

第2号議案 平成30年度一般会計歳入歳出決算について

第3号議案 平成30年度医療施設特別会計歳入歳出決算について

第4号議案 日本赤十字社佐賀県支部副支部長の選出について

そ の 他 佐賀県赤十字血液センターの平成30年度事業報告について
外部監査の導入について

(3) 令和元年度第2回支部評議員会 令和2年2月6日開催（於 支部会議室）

第1号議案 令和2年度事業計画について

第2号議案 令和2年度一般会計歳入歳出予算について

第3号議案 令和2年度医療施設特別会計歳入歳出予算概算書について

第4号議案 日本赤十字社佐賀県支部監査委員の選出について

そ の 他 令和2年度佐賀県赤十字血液センターの事業計画について
令和元年8月豪雨災害の救援活動について
佐賀県内企業による赤十字支援プログラムについて

(4) 令和元年度支部評議員会文書審議 令和2年2月28日提出

第1号議案 令和元年度一般会計歳入歳出予算の補正について



指山弘養 佐賀県支部長



令和元年度第2回評議員会

9 医療事業の充実（唐津赤十字病院）

（１）総 括

今年度は、10月に消費税率が8%から10%まで引き上げられたことで、消費税引き上げに係る補てんに伴う臨時的な診療報酬改定として医療機関別係数の改定がなされました。

当院への影響としては次のとおりです。基礎係数は0.006ポイントプラスに対し、機能評価係数Ⅱは0.0042ポイントマイナスで、全体として0.0018ポイントのプラス改定となりました。

そのような中、紹介型の地域中核病院として、連携の強化と医療の安全と質の向上に努めた結果、新入院患者は前年度の実績を上回り、入院診療収益の増加に繋がりました。

また、平成30年7月に日本赤十字社（以下日赤本社）から、当院の経営状況について改善の必要があるとして「重点支援病院」の指定を受けました。この重点支援病院の指定解除を目指し、入院患者数を増やすことなどによる医療収益の増加を図るとともに、人件費の抑制や共同購入等による費用削減に努めた結果、今年度は経常収支の黒字化を果たすことができました。

（２）令和元年度の重点的取組みに関する現況

ア 救急医療・急性期医療体制への取組み

本年度も常勤救急医は3名体制でしたが、引き続き救急医療・急性期医療の体制整備の推進を図るとともに、北部医療圏全体の救急体制や「地域救命救急センター」の役割を踏まえ、病床の有効利用に努めました。

また平成31年4月から、唐津市消防本部より週2回救急隊員2名が当院へ派遣され、多重事故等の医師搬送事案が発生した時に救急医を現場へ出動させる体制である救急ワークステーションを開設しました。

救急患者の状況

年 度		27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	R 元年度	対前年度比 (%)
患者数(人)	時間内	653	624	638	622	682	109.6 %
	時間外	7,330	6,705	16,230	15,806	15,578	98.6 %
	合計	7,983	7,329	16,868	16,428	16,260	99.0 %
内救急車数	時間内	653	624	638	622	682	109.6 %
	時間外	1,338	1,355	1,562	1,475	1,568	106.3 %
	合計	1,991	1,979	2,200	2,097	2,250	107.3 %
内入院数	時間内	529	492	471	475	526	110.5 %
	時間外	1,580	1,542	1,668	1,874	1,880	100.3 %
	合計	2,109	2,034	2,139	2,349	2,406	102.4 %

イ 医師の確保対策

地域間、診療科間における医師の偏在等を背景とした医師不足はいまだ解決されておらず、当院においても少なからず診療機能に影響を受けていますが、派遣大学に対して行ってきた長期ビジョンに立った医師確保対策が功を奏し、安定感のある診療部が構成されつつあります。

また、急性期医療を展開するうえで医師の育成・確保は重要なことから、基幹型臨床研修医および協力型臨床研修医の確保に努めました。

診療部の推移	H26	H27	H28	H29	H30	R1
医 師	69	68	69	72	77	76
歯科医師	1	0	0	0	1	1
研 修 医	9	2	5	7	5	3
(基 幹 型)	5	2	5	7	3	3)
	79	70	74	79	83	80

ウ 看護師の確保対策

看護師の確保対策として例年同様に日赤佐賀県支部の奨学金制度の活用や、県内外の看護学校に採用試験への応募依頼、さらに民間主催の看護師合同説明会への参加を実施した結果、21名の看護師を採用することができました。

また、新人看護師の職場適応を促進するために行っている3ヶ月の新人ローテーション研修が定着してきており、早期の離職者が少なくなっています。

エ 小児・周産期医療体制への取り組み

平成29年度より開設した「地域連携小児救急センター」は、5つの大学病院からの医師派遣と唐津東松浦医師会及び離島診療所の連携協力医による一次救急医療の提供と当院が担当する二次救急医療との連携が形づくられてきています。今後も持続可能で安定した小児救急医療体制が構築できるよう行政、医師会と協力し取り組んでいきます。

産婦人科医師については、引き続き3名体制を維持しているが、ハイリスク分娩のみならず正常分娩を地域で安心して行えるような周産期医療を確立するためには産婦人科医師の増員は不可欠であり、医師確保に向けて唐津市、医師会と協力しながら継続的に大学等関係機関に積極的な働きかけを行っています。

オ 地域がん診療連携拠点病院としての機能強化

入院患者の苦痛に対するスクリーニングを導入し、緩和ケアチーム新規依頼件数が前年度の2倍へと増加し、治療前からの早期介入患者も増加して治療と並行した支援が提供されています。

令和元年11月には、ACP（人生会議）をテーマに市民公開講座を開催し、市民への啓発活動を行いました。

カ 地域医療支援病院としての機能強化

本年度も「紹介患者を断らない」をモットーに院内での情報交換を密にし、紹介患者のスムーズな受入れが出来るよう努めています。令和元年度も紹介率、逆紹介率ともに地域医療支援病院の承認要件をクリアできています。（令和元年度：紹介率 82.0%、逆紹介率 59.8%）

退院支援に関しては、P F M^{※1)}を導入し徐々に介入件数は増加しています。

また、できる限り住み慣れた地域で安心した生活維持を目指すために佐賀県北部医療圏退院支援ルールに基づき、地域のケアマネージャーとより一層連携し多職種協働で支援を行っています。

キ DPC/PDPS^{※2)}（診断群分類を用いた1日当たり包括支払方式）対策

コーディングの精度向上のために、医師を中心とした「D P C コーディング専門委員会」を毎月実施しており、コーディングの際に注意すべき点や疑問点などについて協議し、必要に応じて各部門へのフィードバックを行っています。

ク 災害時医療

当院では赤十字の使命に基づき救護班を3班、また地域災害拠点病院としてD M A Tを3チーム、さらに原子力災害拠点医療救護班を2班編成、原子力災害医療派遣チーム要員を12名養成し災害時に備え、自治体主催の救護活動等の各種訓練及び日赤佐賀県支部との合同による救護訓練等を定期的を実施しています。

8月28日（水）の大雨の影響により佐賀県内で発生した災害に対して、当院は8月29日（木）から30日（金）まで救護班1班を杵藤エリアに派遣し、医療ニーズを調査するための避難所での聞き取り調査を実施した。9月7日（土）から9日（月）にかけては避難所生活が続いている被災者の夜間健康支援のため、看護師2名（計6名）を避難所に派遣し、各日17時～9時まで活動しました。

また、「日本赤十字社が被災地の保健医療ニーズを把握し、専門的観点から関係機関と協議・調整すること」を目的に、当院の医師2名を災害医療コーディネーターとして派遣しました。

11月21日（木）に、「令和元年度唐津港に寄港した客船における新型インフルエンザ対応訓練」が実施され、第2種感染症指定医療機関である当院は、擬似症患者の受入対応を行った訓練を実施し、福岡検疫所等の国の機関、県などの地方公共団体、消防機関、警察機関及び医療機関との連携・協力の強化と関係職員の技能習熟を図ることができました。

11月30日（土）に、佐賀県原子力防災訓練が実施され、当院では玄海原子力発電所内で放射性物質に汚染されたという想定で、傷病者1名の受入・処置訓練を行いました。

また、3月13日に県内で1例目の新型コロナウイルス感染症患者が生じたことを受け、県・地元市町・医師会等と連携し、感染症指定医療機関としての

役割を果たすべく取り組んでいます。

ケ 重点支援病院指定に伴う取組み

平成 30 年 7 月に日赤本社より当院の経営状況について改善を要するとして「重点支援病院」の指定を受けた。「重点支援病院」の指定を受けた最大の要因は、直近 3 年の業務活動によるキャッシュフローの平均がマイナスになったことです。

<業務活動によるキャッシュフロー推移>

平成 28 年度	－454,607,409 円
平成 29 年度	－91,164,203 円
平成 30 年度	－11,034,896 円
3 年間の合計	－556,806,508 円

平成 28 年度は新病院建設・移転に伴う入院患者制限の影響が大きく、入院診療収益が 2 か月にわたり減少しました。平成 28 年 8 月の新病院移転以降の医業収益は増加傾向にありますが、平成 29 年度、平成 30 年度は、職員の増加に伴う人件費増などの費用増加がこれを上回りました。

この重点支援病院の指定解除を喫緊の課題とし、日赤本社支援のもと、経営改善に着実に取り組んでいます。

コ 経営健全化対策

(ア) 経営手法の確立

令和元年度は B S C※³⁾を導入して 6 年目となりました。例年継続して実施している院長ヒアリングにおいて病院幹部と各部署との意見交換を図りました。

また 11 月 27 日（水）には、院長ヒアリングで成績が良かった上位 3 部門（薬剤部、3 階南病棟、臨床工学技術課）の代表者が出席して、B S C に関するオープントークを実施し、計画の作成や実行に対する方策について、情報共有を行いました。

収入対策

(イ) 入院患者の安定的な確保、積極的な施設基準の取得、D P C / P D P S に係る機能評価係数Ⅰの改善や、平均在院日数短縮に取り組み収入確保に努めました。

特に、社会や地域の実情に応じて求められている機能である「高度・先進的な医療」、「総合的な医療」、「重症患者への対応」、「5 疾病 5 事業への対応」等、地域への貢献が評価される機能評価係数Ⅱの数値向上について年度を通して取り組んでいます。

(ウ) 支出対策

病院機能や医業収益に見合った人員配置に努め、人件費の適正化を図るとともに、委託費の適正化についても喫緊の課題として取り組みを進めています。

また、建物に適したエネルギー管理をさらに推進し、光熱水費縮減を図っています。

さらに、日本ホスピタルアライアンス（NHA）や日赤本社の共同購入制度等を積極的に活用し、在庫管理の徹底やより安価な代替品を導入するなどしています。

<主な施設基準の取得>

【特掲診療料】

- ・在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料
- ・医療機器安全管理料2（再取得）
- ・小児鎮静化MRI撮影加算
- ・腹腔鏡下肝切除術（部分切除、外側区域切除）（再取得）
- ・腹腔鏡下脾腫瘍切除術
- ・放射線治療専任加算（再取得）
- ・外来放射線治療加算（再取得）
- ・外来放射線照射診療料（再取得）

過去5年間の収支状況

		27年度 実績	28年度 実績	29年度 実績	30年度 実績	R元年度 実績	前年同期 比(%)
1日平均患者 (人)	外来	462	429	477	503	513	102.0%
	入院	279	267	279	280	273	97.4%
診療単価(円)	外来	16,242	17,531	18,016	18,949	20,590	108.7%
	入院	54,847	54,565	57,422	58,553	61,002	104.2%
外来収益(百万円)		1,814	1,814	2,051	2,316	2,559	110.5%
入院収益(百万円)		5,592	5,352	5,761	5,992	6,112	102.0%
収入(百万円)		7,722	8,737	9,179	9,369	9,616	102.6%
支出(百万円)		7,504	10,058	10,420	9,500	9,333	98.2%
収入－支出(百万円)		218	-1,321	-1,241	-132	282	—
借入金残高(百万円)		3,554	3,423	3,720	3,645	3,570	—

※ 1) P F M

「Patient Flow Management」の略称。

予定入院患者の情報を入院前に把握し、問題解決に早期に着手すると同時に、病床の管理を効率的に行うことなどを目的とする病院内の仕組み。

※ 2) D P C / P D P S

「Diagnosis Procedure Combination/Per-Diem Payment System

(診断群分類を用いた 1 日当たり包括支払方式)」の略称。

DPC とは病名や診療内容に応じて定められた 1 日当たりの定額の点数で入院診療費を計算する方式です。(診断群分類)

旧来の診療報酬制度では入院・外来ともに出来高報酬でしたが、平成 15 年度より急性期医療に係る入院診療費については DPC/PDPS が導入されました。

入院診療費は包括評価部分と出来高評価部分で構成され、この包括評価部分を DPC に基づいて算定を行います。

DPC の症例ごとに標準入院日数が設定されており、また段階的に 1 日当たりの診療報酬が引き下げられていく制度なので、長期の入院になるほど 1 日当たりの診療単価が安くなります。

※ 3) B S C

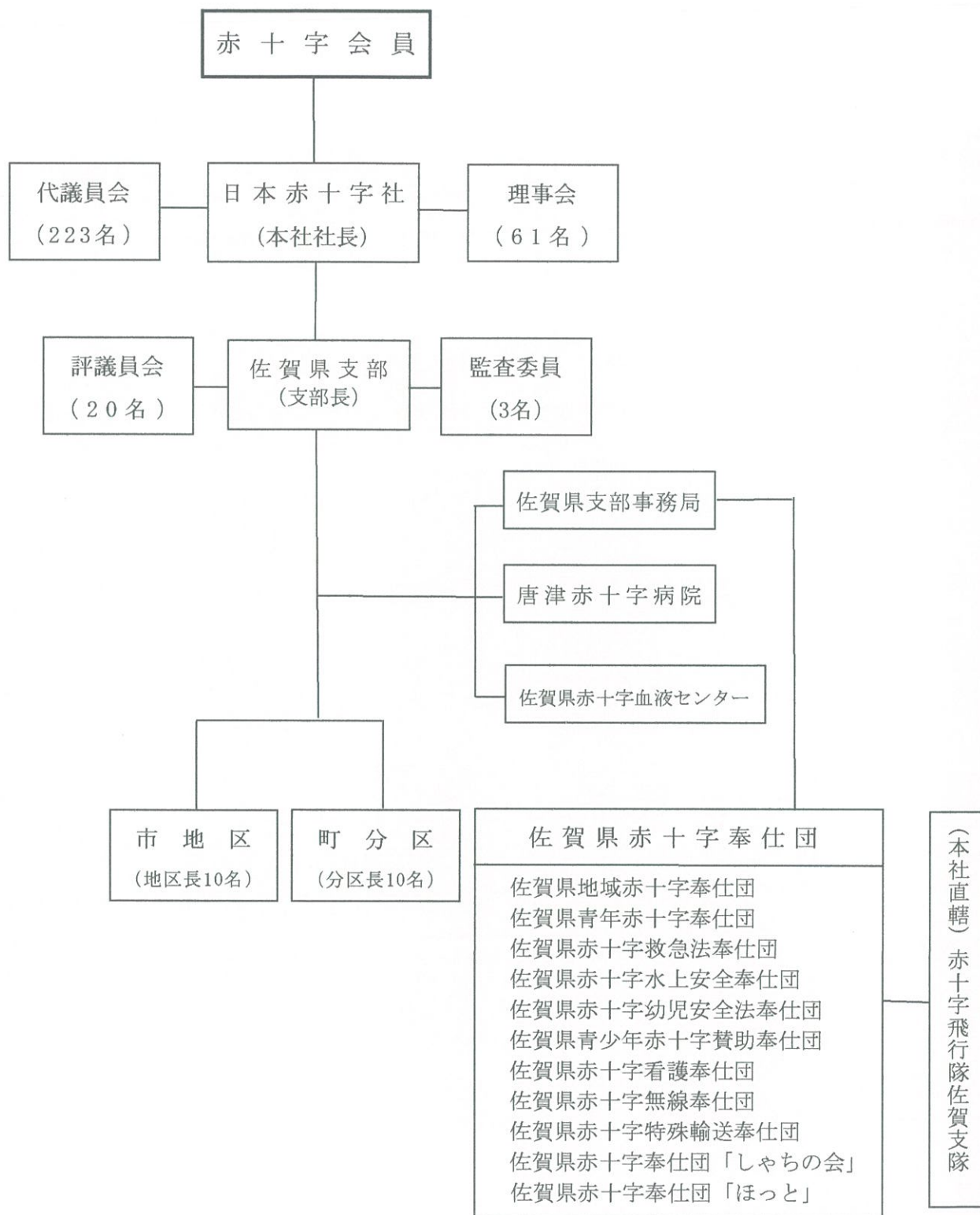
「Balanced Score Card (バランスト・スコアカード)」の略称。

戦略マネジメントシステムの一つ。病院幹部が立てた戦略を各部署の実務レベルまで落とし込み、全職員が戦略を共有し、意識の方向性を合わせるための仕組みのこと。

10 佐賀県支部の組織・役職員

(1) 組 織

(R2年3月31日現在)



(2) 役 職 員

ア 支部役員（R 2年 3月31日現在）

職 名	氏 名	職 名 等
支 部 長	指 山 弘 養	前(株)佐賀銀行取締役会長
副 支 部 長	小 林 万 里 子	佐賀県副知事
	川久保 三起子	佐賀県健康福祉部長
支 部 監 査 委 員	西 清 澄	元佐銀リース(株)社長
	峰 達 郎	唐津市長
	山 田 恭 輔	江北町長

イ 佐賀県支部選出本社役員（R 2年 3月31日現在）

職 名	氏 名	職 名 等
代 議 員 (本社理事)	中 富 博 隆	久光製薬(株) 会長
代 議 員	中 山 弘 志	(株) 中山鉄工所 社長

ウ 評議員(R 2 年 3 月 31 日現在)

番号	氏 名	支部長・地区選出の別	職 名 等
1	西 清 澄	支 部 長	元佐銀リース(株)社長
2	坂 田 勝 次	支 部 長	株式会社佐賀新聞社常務取締役
3	三 苫 紀美子	支 部 長	佐賀県地域婦人連絡協議会会長 佐賀県地域赤十字奉仕団委員長
4	伊 藤 正	支 部 長	佐賀県社会福祉協議会副会長
5	御 厨 安 守	佐賀市地区	佐賀市社会福祉協議会会長
6	小城原 直	佐賀市地区	佐賀市自治会協議会会長
7	峰 達 郎	唐津市地区	唐津市長
8	橋 本 康 志	鳥栖市地区	鳥栖市長
9	横 尾 俊 彦	多久市地区	多久市長
10	深 浦 弘 信	伊万里市地区	伊万里市長
11	小 松 政	武雄市地区	武雄市長
12	樋 口 久 俊	鹿島市地区	鹿島市長
13	江里口 秀 次	小城市地区	小城市長
14	村 上 大 祐	嬉野市地区	嬉野市長
15	松 本 茂 幸	神埼市地区	神埼市長
16	伊 東 健 吾	佐賀中部地区 (神埼郡)	吉野ヶ里町長
17	末 安 伸 之	鳥栖地区 (三養基郡)	みやき町長
18	脇 山 伸太郎	唐津地区 (東松浦郡)	玄海町長
19	松 尾 佳 昭	伊万里地区 (西松浦郡)	有田町長
20	田 島 健 一	杵藤地区 (杵島郡・藤津郡)	白石町長

任 期 自平成31年 2 月 14 日 ～ 至令和 4 年 2 月 13 日

エ 日本赤十字社佐賀県支部事務局（R 2 年 3 月 31 日現在）

職 名	氏 名
事務局長（兼）事業推進課長	船 津 定 見
事務局付部長兼総務課長	新 郷 幸 雄
参 事（兼）総務係長 （兼）会計係長	轟 木 安 枝
参 事（兼）講習普及係長	原 香 織

オ 唐津赤十字病院（R 2 年 3 月 31 日現在）

職 名	氏 名	職 名	氏 名
院 長	志田原 哲	形成外科部長	西 平 智 和
副 院 長	湯ノ谷 誠 二	泌尿器科部長	明 利 浩 行
副 院 長	宮 原 正 晴	産婦人科部長	佐 護 直 人
事務部長	貞 松 徳 美	放射線科部長	眞 武 邦 茂
看護部長	加 藤 英 子	リハビリテーション科部長	仙 波 英 之
疾病予防センター長	茨 木 一 夫	麻酔科部長	白 武 孝 久
医療安全推進センター長（兼）	湯ノ谷 誠 二	救急科部長	中 島 厚 士
がん医療推進センター長（兼）	鮫 島 隆一郎	病理診断科部長	明 石 道 昭
教育研修推進センター長（兼）	橋 本 重 正	歯科口腔外科部長	林 田 淳之介
救命救急管理センター長（兼）	中 島 厚 士	薬剤部長（兼）	野 田 隆 博
救命救急センター長（兼）	中 島 厚 士	医療技術部長（兼）	仙 波 英 之
患者総合支援センター（兼）	眞 武 邦 茂	医療社会事業部長（兼）	酒 井 正
感染管理室長（兼）	宮 原 正 晴	医療技術部技師長	平 田 一 英
第 1 内科部長	野 田 隆 博	薬剤課長	岩 田 和 弥
第 2 内科部長	長 嶋 昭 憲	栄養課長	池 田 敦 子
第 3 内科部長	(欠)	検査技術課長	永 石 信 二
第 1 循環器内科部長	森 唯 史	放射線技術課長	坂 井 征一郎
第 2 循環器内科部長	橋 本 重 正	臨床工学技術課長	加勢田 達 矢
小児科部長	田 代 克 弥	リハビリテーション技術課長	麻 生 昭 秀
第 1 外科部長	鮫 島 隆一郎	広報推進室長（兼）	廣 田 聡
第 2 外科部長	井久保 丹	経営対策課長	廣 田 聡
乳腺外科部長	小原井 朋 成	総務課長	松 本 英 成
呼吸器外科部長	小 島 勝 雄	会計課長	野 方 宏 紀
整形外科部長	生 田 光	医事課長	徳 田 孝 久
眼科部長	(欠)	情報システム課長	米 倉 稔 喜
耳鼻咽喉科部長	(欠)	医療社会事業課長	入 江 富美夫
脳神経外科部長	鈴 山 堅 志	診療支援課長	岩 本 利恵子
皮膚科部長	(欠)		

カ 佐賀県赤十字血液センター(R 2 年 3 月 31 日現在)

職 名	氏 名
所 長	松 山 博 之
事業部長	溝 上 博 之
事業副部長	鹿 毛 哲 也
総務課長	田 中 幸 徳
献血推進課長	一ノ瀬 知早子
採血課長	小 島 律 子
学術情報・供給課長	松 永 直 行
品質情報課長	(兼) 松 永 直 行
医務課長	山 本 恵 子

キ 専任職員数 (R 2 年 3 月 31 日現在)

施 設 名	職員数
日本赤十字社佐賀県支部	8 名
唐津赤十字病院	499 名
佐賀県赤十字血液センター	34 名

日本赤十字社佐賀県支部の現勢（令和元年度）

1. 沿革

明治22年(1889) 5月28日 日本赤十字社
佐賀県支部設置
昭和27年(1952) 10月31日 佐賀県支部に改称

2. 会員 個人 233, 231人
法人 2, 132法人

3. 役員

支部長 指山 弘義 (元佐賀銀行会長)
副支部長 小林 万里子 (副知事)
" 川久保 三起子 (県健康福祉部長)
評議員 20人

(本社理事) 中富 博隆
(本社代議員) 中富 博隆 中山 弘志

4. 青少年赤十字加盟校登録数

幼・保稚園	7園	829人
小学校	122校	26,503人
中学校	77校	20,618人
義務教育学校	6校	2,227人
高等学校	37校	9,312人
特別支援学校	3校	206人
計	252校(園)	59,695人
指導者数		3,412人

(令和2年3月31日現在)

5. 赤十字奉仕団登録数

地域	32団	4,526人
青年	1団	23人
特殊	9団	226人
計	42団	4,775人

(令和2年3月31日現在)

6. 講習普及活動

区分	指導者	受講者
救急法	69人	3,078人
水上安全法	29人	1,074人
健康生活支援講習	9人	57人
幼児安全法	20人	655人
防災セミナー	8人	3,863人

(令和2年3月31日現在)

7. 災害等救護

救護班	班数	5班	人員	30人
無線局	基地局	4局	移動局	73局
車両等	救急車	2台	災害救援車	6台
	災害連絡車	4台	サヘメータ	1台
資器材	エアートント	2張	テント	78張
	トフラッシュテント	1張	(イージートント)	22張
	医療セット	3組	担架・ベット	52台
	NBC 災害除染セット	1組	非常炊き出し釜	24台
救 援 物 資	緊急セット	345セット	安眠セット	377セット
	毛布	1,387枚	非常食	1,056食
	バスタオル	595セット	ブルーシート	186枚

(令和2年3月31日現在)

8. 医療事業 唐津赤十字病院

施設数	1	診療科	29科	病床数	304床
総患者数	223,900人			1日平均	
入院	99,778人			273人	
外来	124,122人			513人	

(令和2年3月31日現在)

9. 血液事業 佐賀県赤十字血液センター

施設数	1	車両台数	17台
移動献血車(再掲)	2台	献血運搬車(再掲)	8台
献血者数		供給本数	
成分献血	12,831人	成分製剤	73,984本
400mL 献血	17,726人	全血製剤	0本
200mL 献血	631人		
計	31,188人	計	73,984本

(令和2年3月31日現在)

10. 会計 (令和元年度歳入歳出決算) 単位: 千円

区分	歳入	歳出
日本赤十字社佐賀県支部	559,194	513,375
唐津赤十字病院	9,616,072	9,333,653

11. 佐賀県赤十字有功会 (平成9年発足)

会長 中富博隆
会員数108人

(2020/3/31 作成)



(佐賀県庁に掲げられた懸垂幕)

○日本赤十字社佐賀県支部

〒840-0843
佐賀市川原町2番45号
TEL0952-25-3108、FAX0952-25-4184

○唐津赤十字病院

〒847-8588
唐津市和多田2430番
TEL0955-72-5111、FAX0955-72-9530

○佐賀県赤十字血液センター

〒849-0925
佐賀市八丁畷町10番20号
TEL0952-32-1011、FAX0952-32-2002